

One purpose

FOR BETTER COMMUNICATION

同志社大学通信
DOSHISHA UNIVERSITY

特集

課外活動は今

●同志社人訪問

株式会社片山商店代表取締役

片山象三さん
に聞く



『ONE PURPOSE』は学生・卒業生のみなさんと大学とのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までご意見・情報をお寄せください。

大学の活動



特集

課外活動は今 2

楽洛キャンパス 8

1200年の都・京都をキャンパスにした「学びと遊び」のプログラム

同志社の研究は今 11

技術革新のシーズとなる新たな機能性材料の創製をめざして
・界面現象研究センター 工学部教授 森 康維

データでみる同大生の2006年度就職戦線 13

2007年度 大学予算について 15

CAMPUS NEWS 17

元阪神タイガース 片岡篤史氏 新入学生歓迎特別講演会 / スポーツ健康科学部棟(仮称)起工式 / 同志社大学の募金事業 / 今出川キャンパスに「SAN FRANCISCO COFFEE」が開店 / ラグビー場 人工芝敷設オープニングセレモニー / 追悼記念礼拝 JR福知山線脱線事故及び福島でのバス事故から2年を覚えて / 本学教員執筆図書の紹介 / 卒業生の新刊図書

在学生・教員の活躍

MY PURPOSE 27

留学生を支援するボランティア活動に奔走 ~ 相手の立場で考えることの大切さを知る ~
・田口 沙緒理さん(政策学部4年次生)

卒業生の活躍



INTERVIEW ~同志社人訪問~ 20

株式会社片山商店代表取締役
片山 象三さんに聞く

MY JOB, MY LIFE ~シリーズ私と「仕事」~ 23

・宮下 幾久子さん(1991年法学部卒業)
・杉浦 万正さん(1998年経済学部卒業)

ANNOUNCEMENT 25



表紙の情景[多目的ホール(ハローホール)前]

4月のオリエンテーション期間、とくに入学式後の1週間はクラブ・サークルの出店が並び、京田辺キャンパスが1年間で最も活気づく季節である。多目的ホール(ハローホール)前の広場でも、クラブ・サークル紹介の催しが繰り広げられ、お昼休みにはお弁当を広げて観賞する学生の姿が数多く見られる。

多目的ホール(ハローホール)は、京田辺キャンパスにおける文化イベントの中心。座席はすべて移動式(最大300席)のため自由なレイアウトが可能で、各種講演のみならず、インスタレーションなどで効果的な演出をすることもできる。



特集

課外活動は今

学生の課外活動と大学学生支援センターの役割



同志社大学には現在、170を超える課外活動公認団体があり、8000人を超える学生が所属している。勝利という目標を見据え日々鍛練する体育系、感性を磨き創造性を養う文化系。大学創立当時から活動する伝統のあるクラブもあれば、トレンドを反映したサークルもある。その中から全国レベルの高い実力を持つクラブをピックアップ、その特徴や活動状況を紹介するとともに、学生支援センターの西村卓所長に大学の支援体制の現況についてインタビューした。



アーチエリー部

歴史に刻んだ大金星

2006年7月、日本アーチエリー界に歴史的衝撃が走った。静岡・つま恋で行われた第45回全日本学生アーチエリー男子王座決定戦。それまで公式戦150連勝、王座決定戦19連覇を果たしていた王者・近畿大学を、同志社大学が打ち破ったのである。「限られた時間内で、3人がどれだけ正確に射ることができるか。決勝ラウンドは予選より射る本数が少なくなりやすから、よりハ



イレブルの戦いになります。しかも決勝の相手は無敵の近大。少しでもミスをした方が負けという厳しい状況でした。でも、会場ではたくさん応援が同志社の方に向いていて、とても良い雰囲気だった。勝つことができたのは、応援の力が大きかったと思います」と、48代目主将の西川良平さん(文学部社会学科メディア学専攻4年次生)は、その日を振り返る。

アーチエリー部の歴史は古く、弓道部洋弓班として活動を開始したのが1960年。過去にはオリンピックにも代表選手を送り出し、モントリオール大会では個人で銀メダルを獲得している。だが近年は、有力選手を多数集めた近大の後塵を拝しており、昨年の優勝は実に28年ぶりの快挙だった。この結果、団体では男子5回、女子は7回学生王座に就いた実績を持つこととなった。

西川主将が語る部の今年のスローガンは「全員で勝ちにいこう。今何をすべきか考える」。試合練習はもちろろん、私生活でも常に自分が何をすべきかを考える。自分が不調でもチームのために何ができるかを考えるようにしたい。

有望な新人を多数迎えた今年、「復活した同志社アーチエリー部は再び勝ちをめざしている」。

ボウリング部

19年ぶりに勝ち取った栄冠

アーチエリー部が28年ぶりなら、こちらは19年ぶりの栄冠だ。昨年の第44回全日本大学ボウリング選手権大会、同志社大学ボウリング部は男子団体(5人チーム戦)で優勝を果たした。

かつては名門と呼ばれたボウリング部だが、この19年間、全国大会では4、5位関西リーグでも常に2、3位の位置から上へ上がることができなかった。他の強豪校が経験豊富な有力選手を集めて力を伸ばしていく中で、同志社の方針は、大学から本格的にボウリングを始めた選手を育てていくこと。練習は、京田辺キャンパス近くのボウリング場で14レーンを借りきて、月・水・金曜日の週3回、夕方の2時間のみである。他校が取り組んでいる体力強化の練習も、あまりメニューに取り入れていない。

そんなクラブが全国制覇を成し遂げたのは、昨年度の主将・笹田泰裕さん(文学卒)の力に負つところが大きい。笹田さんは、第45回関西学生ボウリング選手権、第45回関西学生秋季リーグ戦、第45回関西ボウリング選手権のいずれの大会でも優秀な成績を修めている。今年度の主将を務める高木宏彰さん(文学部美学芸術学科3年次生)は



「笹田先輩ともう1人、実力のある先輩がいましたが、あとの3人はボウリング経験がわずか1年半。優勝など難しいと思っていました」と正直に語る。

高木さん自身、高校まではバスケットボールをしていた。転向組。「選手人口が少ないので、大学から始めても上をめざせるのでは」と思って始めたボウリングだったが、勝ちたい気持ちは「キャリア組」に劣るものではない。ひとまず今年、関西学生リーグでの優勝をめざす。

【体育系】

フエンスシング部

フェアな騎士道精神を受け継ぐ

大学入学後に始める学生が多いボウリング部に対して経験者が大半を占めるのがフエンスシング部だ。昨年12月、カタールの首都・ドーハで行われた第15回アジア大会、フエンスシング男子フルレ個人で優勝し、同種目では28年ぶりの金メダルを日本にもたらした太田雄貴さん(商学部4年次生)も、フエンスシングの選手歴は小学生時代にまでさかのぼる。「もちろん初心者も受け入れています。女子でも高校から、男子は太田君のように小学校で始めたというケースが少なくありません」と話す主将の森本敏昭さん(文学部社会科学福祉学専攻4年次生)。彼もまた、高校時代の部活動でフエンスシングを始めた人だ。

が面白い。ハネイを克服して勝つ、そのための練習であり勝った時が一番うれしい。また部活動を通して、上下関係における礼儀を学んだり、主将として部員をまとめていく経験ができたことは、自分にとって大きな財産となるはずですよ」と森本さんは話す。

昨年は女子が第56回全日本学生フエンスシング王座決定戦の工大の部で優勝、男子は第46回全日本大学対抗選手権大会工大団体の部で準優勝を果たした。今年は全日本タイトル男女ダブル優勝をねらう。



ヨット部

風を読み、目標への「海道」を切り開く

1933年からめざましい活躍を続けているヨット部の歩みは、そのまま日本選手権大会の歴史と重なる。伝統校の凋落、新興大学の台頭、多くの大学が浮き沈みを経験してきた中で、同志社大学ヨット部は全日本学生選手権で高い優勝率を誇り、きわめて安定した実力を維持している。

最も新しいところでは、昨年の第71回全日本学生ヨット選手権大会、団体戦国際スナイプ級で優勝、日本大学と2強時代を築くヨット部だが、部員の7割は大学に入って初めてヨットを操る初心者だ。男女の区別がなく、体力差が問題にならない競技というのも、スポーツの世界では珍しい。

前年12月からのオフ期間が終わる2月中旬に、11月の学生選手権をめざして、1年間の活動が始まる。「練習は琵琶湖で週末の金・土・日曜日、泊まり込みで行っています。大学が休みの期間には、週5日の合宿を組みます。集中して練習しますから八



ードな生活ですが、寝食をともにし一緒に生活する部員は、家族以上の付き合いとも言えます」と、主将の出道耕輔さん(商学部4年次生)。未経験者を2、3年で常勝チームのメンバーに仕上げるのだからハードと云うのもうなすける。

ヨットの魅力は聞くところのようだが答えが返ってきた。

「ヨットにはカーターがなく、風を動力にして動きます。ですから、風を感じて体がなれる。自然を相手にした戦いというのが、ヨットの醍醐味ですね」。

軽音楽部

やりたい音楽に悔いなく取り組む

今でこそ軽音楽といえばロックのイメージが強いが、軽音楽部＝ジャズだ。150人超の部員を抱える軽音楽部で、看板バンドと自他共に認めるのが、ジャズのビッグバンド「ザ・サイド・ハード・オーケストラ」である。スウィングジャズが多数派を占める中、ロックやラテンなどの要素を加えたコンテンポラリージャズを指向している。また、電子楽器を多用する異色のバンドとしても知られている。昨年には、大学ビッグバンドの「甲子團」とも言える「第37回YAMANO BIG BAND JAZZ CONTEST」で38年ぶりの100回目の最優秀賞を獲得した。

「ザ・サイド・ハード・オーケストラ」は毎年2月に結成し、その年の12月に解散というサイクルで運営されている。「コンサートマスター」と呼ばれるバンドの代表が、その年ごとにメンバーを集めるのだ。編成は17〜18人程度。いったん結成すると、よほどのことがない限りメンバーの変更はない。軽音楽部ではあるイベントやコンサートのためにメンバーが集まってバンドを結成することが多いのだが、「ザ・サイド・ハード・オーケストラ」は年間を通して活動する唯一のバンドである。練習は週4回、全員が集まることを原則にしており、チームワーク重視の姿勢はまるで体育会系だと言つ。

今年のコサートマスターである古館静也さん(法学部3年次生)は、中学、高校と吹奏楽部でトランペットを吹いていた。「普段の生活は8割が音楽。でも、熱中できるのは今しかありません。だから自分たちのやりたい音楽に悔いなく挑むつもりです」と話していた。



交響楽団

音楽を楽しむ気持ち大切に

ビッグバンドのはるか以上にいく人数で演奏するのが交響楽団。それでも110人を超える楽団員のほぼ半数しか演奏会のステージには上がれない。

構成は大きく弦楽器(バイオリン、ピアノ、チェロ、コントラバ)と管楽器の2つのセクションに分類され、管楽器はさらに木管(フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット)、金管(ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバ)、打楽器(ティンパニ、大・小太鼓)に分かれている。団員は個別の楽器ごとに募集しており、オーディションで入団を決めることもある。練習は新町別館で週3回、主にバート、セクション別に行っている。

6月に立教大学と行う同立交歓演奏会(東京と京都で交互に開催)、11月に大阪のシムフォニーホールで聞く定期演奏会、そして12月(クリスマス)の全同志社メサイア演奏会(この年3回のステージが交響楽団の晴れ舞台だ。その他、3年に1回、有志が参加する海外公演があり、今年3月にはハンガリーで演奏会を行った。ブダペストのリスト



音楽院で開いた演奏会ではチケットが完売となり、地元の熱心なクラシックファンに喝采を浴びたといつ。

3月から幹事を務める水野有美子さん(工学部3年次生、ファサット担当)は、「団体での活動ですから個性のぶつかり合いはありますが、いわば1つの家族みたいなもの。みんな音楽を楽しみたいという気持ちは同じですから、その思いがかなえられる楽団にしたい」と語った。

【文化系】

書道部

書くことは生活の一部

伝統ある書道部の現在の部員は約50人で、男女の割合は半々ほどである。子ども頃から習っていたという経験者もいる中、大学から始めたという人も少なくない。午後4時から2時間ほど、月曜日は京田辺、金曜日は新町の部室で集中して書いている。ただ、他の日でも部室を自由に使うことが

できるので、部員それぞれが好きな時に好きなだけ練習に取り組んでいる。「自分の思いを書道を通して表現する」のが部のポリシーだという。

同志社大学書道部としての書作展は年3回開催され、日々の活動の総括であり、部員の目標でもある。6月の東山・建仁寺での「青風展」、11月の大学祭での「EVE展」、そして12月同志社女子大学書道部とともに開催する「連盟展」。これらには部員全員が出展することになっており、それに合わせて1年の活動のリズムを刻んでいく。

書道部の展覧会以外では、毎年夏に行われる全日本高校・大学生書道展(高大展)に出品する学生も多い。昨年第11回の高大展では、7人が入選した。ほぼ毎年、4〜5人が何らかの賞を獲得しており、同志社大学書道部の優秀作品発表の場と言いつてもいいかもしれない。

「書道はすでに生活の一部になりました。精神を集中して取り組むと気持ちりが安定するのです。また、部室へ行けば共通の目的を持った仲間と会える。大学で書道を続ける意味としては、そのことが非常に大きいですね」と幹事長の清水裕也さん(法学部3年次生)は話した。



クラブ・サークル主な施設の紹介

学生会館

2002年に完成した今出川校地の課外活動施設棟。全館冷暖房が完備されており、クラブボックス(部室)を中心に、学生の多様な活動に対応できるよう、会議室や防音練習場などを備えている。1階には、ラウンジやオープンテラス、生協コンビニも併設。開放的で風通しの良い空間になっている。また、京田辺校地のクラブ・サークル活動の拠点としては、京田辺別館がある。



デイヴィス記念館

新島襄の片腕となり同志社英学校設立に貢献したJ.D.デイヴィスを記念した総合体育館兼講堂。正面ロビーには、デイヴィスの言葉“ My Life is my message.”(私の生涯が私の遺言です)が掲げられている。メインアリーナ(バスケットボール・バレーボール・ハンドボール・バドミントン・体操競技)、柔道場、フェンシング場、剣道場、卓球場、トレーニングルームを有している。



寒梅館

1965年に建てられた旧学生会館を全面リニューアルし、2004年竣工。大小2つのホールがあり、赤レンガの内装を基調とした「ハーディーホール」は客席数850のコンサートホール。新島襄の「アメリカの父」である Alpheus Hardy氏にちなんで名付けられた。また、同志社徽章の愛称を用いた「クローバーホール」は、舞台と客席が可動式になっており、レイアウト次第で100〜200席用意できる。スタジオ仕様のライブハウス兼ミニシアターとなっている。



アメリカンフットボール場、サッカー場、ラグビー場

サッカー場、アメリカンフットボール場は同じフィールドにある広大なグラウンドで、2005年の夏に人工芝が敷設された。人工芝は見た目の美しさだけでなく吸収に優れているので、怪我の予防などに効果があり、クラブ活動や授業で大いに利用されている。また、ラグビー場についても今年1月から人工芝敷設工事が開始され、先日完成して4月17日(火)にオープニングセレモニーが行われた。ラグビー場の横には、ウエイトトレーニング施設も新たに設置された。



西村 卓 学生支援センター所長に聞く

かつて学生の自治的活動を行う組織として存在した学友会が2004年度に解散し、それに伴って大学は学生に対して新たな対応の仕方を見いだす必要が出てきました。そこで考えた新しいコンセプトが、学生のさまざまな自主的活動を支援していくということであり、それに基づいて立ち上がったのが、以前の学生部から改組した学生支援センターです。これは、大学と学生との関わりという観点で見ると、「対策」から「支援」へと変わる、同志社大学にとって大きなターニングポイントだったと言えるでしょう。

学生支援センターは今出川校地、京田辺校地それぞれの学生支援課とスポーツ支援課の3つを統括しています。学生支援課には学生係、生活係、奨学係、学生相談係といったセクションがありますが、1年次生が通う京田辺校地にはとくに大学生としての学びをサポートする啓発支援を置いていきます。学生支援課は個々の学生の支援を行うほか、課外のプログラムにも積極的に協力し、学友団傘下のさまざまな団体に対して個別に支援・対応しています。

現在、学生の課外活動団体は、公認団体と学生支援センター登録団体の2種類に分かれています。公認団体については、体育系の団体には部長、副部长、文化系の団体には顧問、副顧問として各々教職員が就任し、大学の教職員がより積極的に学生の団体と関わっていく体制を取っています。登録団体についてもアドバイザーという形で関わっていきたく考えています。

近年、課外活動に参加する学生は全国

的に減少傾向にあると言われていますが、本学ではむしろ微増しています。たとえば2006年度の状況を見ますと、公認団体が文化系96団体、所属する学生約55000人、体育系・スポーツ系が78団体、約29000人。登録団体は237団体、約57000人という数字は、現在の学生数約230000人のおよそ60%に当たります。

すると、これだけ多くの学生が参加している諸団体に対して、大学がどのような支援を行っていくかということが課題となってきました。近年本学が取り組んできた具体的な内容を挙げますと、まずハード面については、サッカー場、アメリカンフットボール場の人工芝敷設化、硬式野球場の夜間照明化、陸上競技場全天候化、ラグビー場の人工芝敷設化を今年度で全て完了する予定です。体育会クラブ指導者のフルタイム雇用も進めています。文化系についても、2002年に学生会館(新町キャンパス)が完成、2004年には大小ホールとギャラリーやアトリウムを備えた寒梅館が竣工し、学生のさまざまな活動を支える環境が整っています。

ソフト面については、公認団体の個別クラブからの申請に対応してトレーニングを行い、補助金を付与しています。その場合、まずクラブのスキルを高めるためのものであること、社会・地域に貢献する学内外の交流に資すること、学内の一般学生とともに行う活動であることを重要な観念にしています。また、観客の獲得のための情報提供や

広報協力を行ったり、発表の場を提供するため学生とクラブの共同企画も進めています。

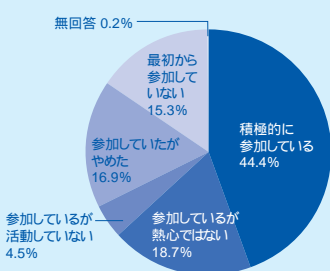
最後に、大学スポーツの在り方についてですが、勝利を求めるとして見るのか、それぞれのアスリートの人格を高めるものとして見るのか、2つの視点があるように思います。技術を向上させ、競り合った時に力を発揮できる体力と気力を作りあげていくことは大学スポーツにとって必要なことです。勝つという目的を保持しつつ、そのためのプロセスの中で培われていく人間関係、地域社会とのつながり、そういったものの中で高い人格が形成されていくことをわれわれは重視しています。体育系でも文化系でも、良いものは人に感動を与えます。人を感動させるのは研ぎ澄まされた技術であり、高い人格なのです。それらを身につけていくことが、大学の課外活動にとって大切なことだと考えています。



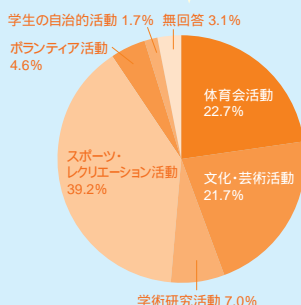
西村 卓

学生支援センター所長

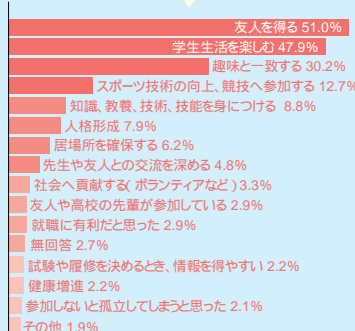
課外活動(クラブ、サークル活動、ボランティア)に参加していますか?



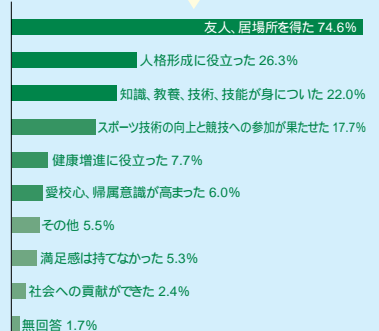
参加している主なクラブ、サークルなどは次のどれですか?



課外活動に参加している目的は? 2つまで選んでください。



課外活動を通じた満足度は? 2つまで選んでください。



知的好奇心の翼を広げて

楽洛キャンパス

1200年の都・京都をキャンパスにした「学びと遊び」のプログラム

この3月、同志社大学今出川キャンパスを中心に開講された「楽洛キャンパス」は、新しい視点で京都の魅力を理解し、楽しみながら京都の文化・歴史を学ぶ体感型の学習プログラム。京都に精通した各界の専門家や大学の教授陣による多彩な講座に、京都市内はもとより関西一円、首都圏からも多くの人たちが参加した。「京都の文化」「京都の歴史」の2つのコースの中から、今回は「伝統文化(華道)」、「伝統文化(京菓子)」、「都市(花の御所と戦国時代の京都)」、「文化(後白河院と芸能)」に、さらに課外講座として行われた「伝統文化(花街)」、「(樹家)お茶屋遊び」をレポートする。

文化コース

講座テーマ	講師名
伝統文化(茶道)	千宗室(茶道裏千家 家元)
伝統文化(千家十職)	筒井 紘一(今日庵文庫長)
建築庭園(茶室)	中村 義明(中村外二工務店 代表)
伝統工芸(京焼・清水焼)	小川 文薫(陶芸家・日展評議員)
伝統文化(京料理)	高橋 英一(南禅寺・瓢亭14代当主)
建築庭園(庭園)	佐野 藤右衛門(造園家)
生活文化(くらし・生活)	麻生 圭子(エッセイスト)
建築庭園(書院・数奇屋)	中村 昌生(京都工芸繊維大学名誉教授)
伝統文化(華道)	笹岡 隆甫(華道「未生流笹岡」次期家元)
伝統文化(京菓子)	山口 富藏(株)末富 取締役社長)
伝統工芸(西陣織)	伊豆蔵 明彦(株)ひなや 代表取締役)
伝統工芸(京友禅)	羽田 登(京都府指定無形文化財「友禅」保持者)
伝統文化(歌道)	冷泉 貴実子(財)冷泉家時雨亭文庫常任理事)
伝統文化(香道)	畑 正高(株)松栄堂 代表取締役)
伝統文化(京漆器)	下出 祐太郎(下出蒔絵司所)
伝統建築(京町家)	黒竹 節人(伝統型建築家/株)ろくちく 代表取締役社長)
生活文化(祭りと行事)	岩上 力(儀式作法研究会 代表)
伝統文化(歌舞伎)	水口 一夫(松竹(株)プロデューサー)
伝統文化(能)	金剛 永謙(金剛流宗家(財)金剛能楽堂財団 理事長)
伝統文化(狂言)	茂山 千五郎(茂山狂言会 代表)

歴史コース

講座テーマ	講師名
文化(源氏物語の時代)	藤谷 壽(同志社女子大学特任教授)
社会(町家で暮らす・商う/活用と保存の途)	森川 真規雄(同志社大学社会学部教授)
美術(広隆寺の仏たち)	井上一 稔(同志社大学文学部教授)
文学(祇園物語の成立事情)	田中 励徹(同志社大学文学部教授)
近代史(幕末の激動から東京・京都へ)	高久 嶺之介(同志社大学人文科学研究所教授)
美術(近世の京都画壇 文人画/大雅・無村)	冷泉 為人(財)冷泉家時雨亭文庫理事長/同志社女子大学客員教授)
美術(室町時代の將軍邸を飾った美術)	太田 孝彦(同志社大学文学部教授)
美術(眼鏡で覗く江戸時代の京都)	岸 文和(同志社大学文学部教授)
芸能(文楽・歌舞伎に見る京都 金閣寺)	山田 和人(同志社大学文学部教授)
社会(町家で暮らす・商う/祭のネットワーク)	森川 真規雄(同志社大学社会学部教授)
都市(上京を歩く)	鏡柄 俊夫(同志社大学文化情報学部准教授)
文学(紫障子と祇園物語)	田中 励徹(同志社大学文学部教授)
美術(千本釈迦堂・大報恩寺の仏たち)	井上一 稔(同志社大学文学部教授)
美術(桃山時代の武家邸宅を飾った美術)	太田 孝彦(同志社大学文学部教授)
近代史(琵琶湖疏水と平安遷都千百年祭)	高久 嶺之介(同志社大学人文科学研究所教授)
美術(近世の京都画壇 応挙・呉春)	冷泉 為人(財)冷泉家時雨亭文庫理事長/同志社女子大学客員教授)
美術(観光の眼差し・江戸から京都を見る)	岸 文和(同志社大学文学部教授)
芸能(文楽・歌舞伎に見る京都 忠臣蔵)	山田 和人(同志社大学文学部教授)
都市(花の御所と戦国時代の京都)	鏡柄 俊夫(同志社大学文化情報学部准教授)
文化(後白河院と芸能)	藤谷 壽(同志社女子大学特任教授)

課外講座

講座テーマ	講座タイトル
伝統文化(茶道)	裏千家での茶道体験
伝統工芸(京焼・清水焼)	「文齋窯工房」見学と陶芸体験
伝統文化(京料理)	「瓢亭」京懐石食事会
建築庭園(庭園)	「京都迎賓館」と梅小路公園「朱雀の庭」の作庭
建築庭園(書院・数奇屋)	和風建築の古典「曼殊院」茶室「八軒軒」特別拝観
伝統文化(花街)	「樹家」お茶屋遊び
伝統工芸(西陣織)	「川島織物セルコン」工場見学と川島織物文化館見学
伝統工芸(京友禅)	「京友禅を知る」羽田美術館見学と作品鑑賞
伝統文化(香道)	聞香を楽しむ
伝統建築(京町家)	「百足屋」での昼食と町家めぐり
伝統文化(花街)	上七軒 舞妓「市まめ」との夕べ

文化コース
進化する京のいけばな

「笹岡隆甫氏から学ぶ新しい華道の魅力」



さきおか りゅうほ 笹岡 隆甫さん「未生流笹岡」次期家元

「この講座で伝えたいのは堅苦しい礼儀作法ではありません。花と真摯に向かい合う中で、美しい生き方のヒントも得る、そんな日本文化の奥深さに触れていただきたい」といふ、講師の華道「未生流笹岡」次期家元・笹岡隆甫氏。スライドを使って行われた講義では、笹岡氏の作品が映し出される度に、参加者からため息が漏れた。

笹岡氏は「神の依代」などいろいろな要

同じように、うつむかず上を向いて生きていかなくはないかと思えます」と話すと、男性の姿も目立った参加者は熱心に聞き入った。

講義終了後、笹岡氏は「京都で生まれた文化の一つとしていけばなを知ってもらおう良ききっかけになりました。ぜひまたこういう機会を持ちたいですね」と語った。

素が混じりあって生まれたといけばなの歴史、人間が生きていくうえで欠かせない美しいもの一つとしての花、人と人が出会う場所を演出するいけばなと建物との関わり、花を美しく見せるデザインなど、いけばなの本質やあり様をわかりやすく解説とくに小学生の頃、祖父に「花を生ける時にうつむいてはいけない。花が下を向いてだらしくなってしまう。大切なのは花の顔をうつむかせない」と教えられた経験を紹介し、「花を美しく生けることから、私たちは美しく生きること」を学んでいきます。花を生ける時と同じように、うつむかず上を向いて生きてい

京菓子を楽しむ

日本の文化のセンスともいえる京菓子の文化性とその楽しみ方を学ぶ講座。講師を務めたのは、明治26年創業、京菓子の老舗として知られる「末富」の三代目、山口富蔵氏。参加者一人ひとりに「末富」特製の京菓子が配られ、和やかな雰囲気の中で講義は始まった。

もつと味わい深いものになります」と山口氏。菓子に付ける銘も「本来はもてなしに使う人が決めるもの。売るときには銘を入れずにお客様にまかせます。それが京菓子を楽しむ遊び心」と言う。
白と緑を重ねて柳、白とピンクは梅や桜など色の使い方の約束事、ウケイヌや満開の



山口 富蔵さん「末富」三代目

もてなしの菓子として発展した京菓子は、何より四季を大切に、季節が移ろつ姿を楽しむ。「ただおいしかったではなく、そこに何を表現しているのか。もてなす人がどんなイメージを発しているのか。それが四季の移ろいの中に込められています。菓子作りの種本でもある百人首を覚えていて、食べた時に当てる歌が浮かんでくれれば

桜、蛍の光りなどに見立てて、らしく見せる美学……。おだやかな京言葉で語る山口氏の講義は、笑顔の絶えない楽しい内容のものとなった。



都市研究 京都の歴史

花の御所と戦国時代の京都



鉦柄 俊夫 文化情報学部准教授

烏丸上立売の南西に位置する同志社大学・寒梅館が建つ場所は、室町時代に幕府が置かれた「花の御所」の跡地。寒梅館の建設に当たって行われた発掘調査では、花の御所に関係するいくつかの施設の跡が発見された。その調査で明らかになった花の御所の姿と、そこを基点として広がっていた戦国時代の京都について、「洛中洛外図」との対照も踏まえつつ、調査に主体的に関わった同志社大学文化情報学部・鉦柄俊夫准教授が講義を行った。

平安時代以降の京都、なかでも上京は安土桃山時代には関白・豊臣秀吉が聚楽第を置くなど、日本の歴史の最も色濃いい地域とされる。中世の京都で上京は政治・下京は商業と大別されるが、洛中洛外図で上京の角は商業ゾーンとしても捉えられており、中世の都市を代表する特徴を備えていたという。12代将軍足利義晴が築いた花の御所の発掘調査結果から、室町時代後半の上京の都市としてのあり様を解説した鉦柄准教授。「歴史の勉強とは年表を覚えることだけではありません。一見はらばらに見える事柄が、創造力を働かせることによってつながっていく。それを発見した時の感動が、歴史を学ぶ醍醐味です。京都の町には深く豊かな文化が眠っています。この講座をきっかけに、実際に町を歩いてぜひ新しい発見をしてください」と結んだ。

「源氏物語」の時代

後白河院と芸能



おぼろ ちしき 臈谷 壽 同志社女子大学現代社会学部特任教授

講師は日本古代史とりわけ平安時代の政治・文化・生活史の研究で知られる同志社女子大学の臈谷壽教授。「院政を行った上皇の中で、後白河ほど破格な人はいません。『暗主』『大天狗』と悪口をたたかれましたが、それゆえに貴族社会から武家社会へという大きな転換期を乗りきれた

とも言えるのです。後白河の生涯は政治家としてよりも文化人、芸能者としての生きざまで。とりわけ芸能については先駆者というも過言ではありませんが、後白河上皇と中世の京都の文化・芸能との関わりを語った。硬くなりがちな歴史の話も、ときおりはさむ「トモア」で、年配者が大半を占めた参加者から笑い声が漏れた。

臈谷教授は、「受講生はみなさん大変熱心でした。知識も豊富で好奇心も強い。もつと聴きたいと言ってくださる方が多かったのはうれしいことです。京都は歴史の現場にすぐ立つことができます。1200年の歴史を生かしたこのような講座に参加し、多くの方に知的好奇心を満たしてもらえれば」と、講義終了後の感想を話した。

課外講座

2000年の伝統を誇る「榊家」で、お茶屋の魅力を知る。



祇園甲部 先斗町 宮川町、上七軒、祇園東。京都の五花街といわれる花街で、格式が高く、現在最も多くの舞妓を抱えるのが宮川町。なかでも「榊家」は、2000年もの歴史

を誇る由緒正しいお茶屋として知られる。この課外講座ではその伝統のお茶屋で京文化の一つであるお茶屋遊びの魅力を実体験した。

受講したのは女性3人を含む15人。舞妓の衣装や芸妓との違いなどの説明を聞いたあと、舞妓2人と芸妓1人のお酌で京懐石を堪能し、舞いや唄を觀賞。お囃子を担当する地方の芸妓の手ほどきで花街の優雅な遊びを楽しんだ。

受講者の声

インターネットで今回の講座を知り、若い頃に行けなかった大学の雰囲気を感じたくて参加しました。歴史コースを中心に毎日通いましたが、京都に住んで65年以上になるのに、知らないことがこんなにも多いとは思いませんでした。そうした知識を得られたことが何よりも大きな収穫です。京町家や茶室などの建築物にとても関心を持っているので、またこのような機会があれば、建築物の構造や骨組の切り口から学んでみたいものです。京都を舞台とした小説や本をテーマに、京都の町や文化を考察するよつな講座がもつとあれば面白いですね。



山口 高さん(京都市南区)

次回「楽洛キャンパス」は同志社大学と(株)JTB西日本が共同で設立する「京都観学研究会」が主催し、今出川キャンパスで9月1日(土)11日(火)の予定で開催します。詳細が決まり次第、専用サイト <http://akurakucampus.jp/> でお知らせしますのでぜひご参加ください。

界面現象研究センター

技術革新のシーズとなる 新たな機能性材料の 創製をめざして

本学では2006年4月、界面現象を利用した材料創製に関する学際的・総合的研究を行う「界面現象研究センター」を開設し、文部科学省の「ハイテクリサーチセンター整備事業」に選定された。当センターでは、最新の表面分析顕微鏡を駆使し、あらゆる分野の技術を劇的に革新する可能性を秘めた、新たな物性を有する材料創製の基礎研究が進む。ナノレベルでの研究開発プロジェクトを推進する界面現象研究センターの森康維工学部教授に、研究の現況と展望を伺った。

まず、界面現象という言葉について説明しましょう。「界面」を簡単に言うと、気体・液体、固体の違った物質間の境のことです。よく言われる「表面」とは一方が気体の場合をさし、例えば、気体と固体が接している時の固体の面を表面と言います。そして、ドッキングが分離している状態を思い浮かべるとわかりやすいですが、水と油のように液体と液体が接している境を界面と言います。界面の方がその意味する範囲が広いので、界面現象と言っているわけです。私たちはそうした界面で起こる現象を利用して

新しい材料を創製する研究をしています。現在創製されている材料の中で、均質な物質で出来ているものはほとんどありません。身近な例ではガラス繊維をプラスチックの中に混ぜ合わせたガラス繊維強化樹脂。そのガラス繊維とプラスチック各々の性能以外に、その界面の接着性の問題や、2つがどう融合しているかという点が材料の性質にとって非常に重要になります。複数の材料が混じり合ったもの特性その界面で何が起っているかを研究するのがこのセンターの役割です。

開設の経緯については、もともと1996年度に「ナノ構造ハイブリッドエアー」物性研究プロジェクトがスタートしました。続いて2001年度からは「ナノハイブリッド構造応用技術の研究」プロジェクトを実施し、ナノ構造の機能性材料の開発を各専攻にわたる共同研究として進め、有機・無機複合材料の創製と機能開発などハイブリッド化による物性研究を行ってきました。そして、それらの研究を通して、材料界面の構造やそこで起こる現象を深く理解すれば、優れた物性を持つ材料を見出すことができる可能性があると考え、新しく界

面現象研究に取り組むことが、地球環境を考えた省エネルギーで安全な社会の構築、そのためのナノテクノロジー、バイオテクノロジーなど複合的なハイテク技術の革新につながるということと、界面微細構造制御により発現する物性の評価研究「プロジェクト」を提案しました。ハイブリッド化の材料創製研究を継続するとともに、界面微細構造制御を重視した研究を行うセンターを設立することになったわけです。

具体的には、4つの研究グループ、ナノ粒子表面の微細構造制御による新しい物性の発見、ナノ粒子G、「微細構造を制御した薄膜の物性評価」(ナノ薄膜G)、「荷電粒子照射処理を施した表面微細構造の物性評価」(表面処理G)、「界面微細構造を制



低加速電圧でも高倍率の画像を得ることができる「走査型電子顕微鏡」



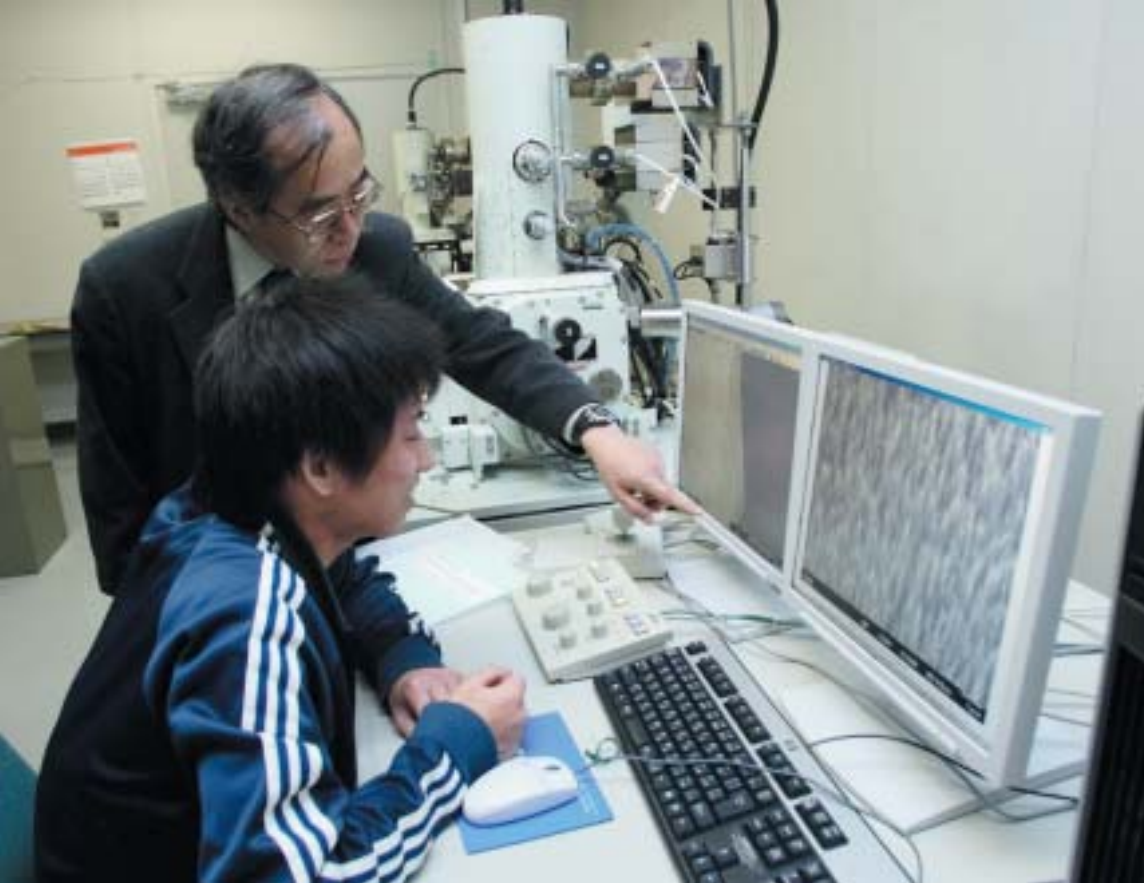
電子顕微鏡に合った試料を製作できる「断面試料作製装置」



高倍率観察が可能な「透過型電子顕微鏡」



森 康維 工学部教授



御した新しい機能を持つ材料創製機能性材料GICに分かれ、相互に連携しながら、新しい物性を有する材料の創製をめざした研究を推し進めています。このついでに基礎的な研究を文部科学省が「ハイテクリサーチセンター整備事業」として認めたことはとても意義深いことであり、目的を明確にしたプロジェクト型の研究センターが多い中

で極めて珍しい存在であると言えます。領域の広い界面現象の研究には電気物性を研究している電気系も関わってきます。複合材料の機械的強度の検討といつことは機械系も関係してきます。さらに、物質の結晶構造がどのようになっているか、どつすれば最も高い性能が発揮できるかといった研究をしている人ももちろんわれ

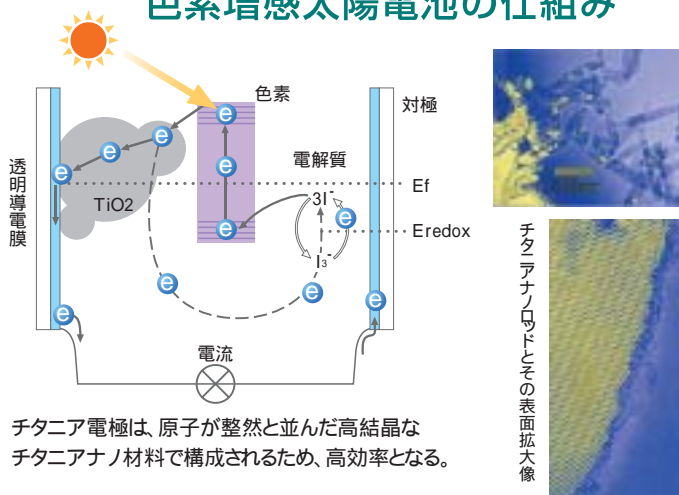
われのような新しく材料を創つていく研究を進めている人も参加しています。そうした電気系、機械系、化学系あるいは環境系といった多様な分野の研究者が集まっているのも、このセンターの大きな特徴です。そして今はこの1年間のそれぞれの研究者の成果を集約し、そこから何かの目的を持つプロジェクト的な共同研究も実現しようと考えています。

ではこのセンターでの研究が今後どついった形で実を結んでいくかについてですが、例えば、シリコン表面上に窒化ガリウムという物質を成長させれば、紫外線の発振機として使えます。現在、紫外線を発する装置は非常に大型なものがありますが新しい物質による固体発光素子を利用するのことができれば、水銀を使った蛍光灯などは

それに置き換えられていく可能性もあります。私が現在手がけているのは、無機E1の材料を創り出すことですが、硫化亜鉛といつ物質にさまざまな金属イオンを添加するのによつてその性能を上げる、そして微粒子化することによって強い電圧をかけずに光らせることができるかと考えています。この

により効率を上げるために酸化チタンの粒子を棒状にして接触点を少なくし、導電率を高めるといつ研究です。電極材料に使われている酸化チタンの微細な構造を研究し、ベストの状態を創り出すといつわけです。酸化チタンに色素を加えることで効率を上げるといつ意味から色素増感太陽電池と呼ばれています。シリコン

色素増感太陽電池の仕組み



チタニア電極は、原子が整然と並んだ高結晶なチタニアナノ材料で構成されるため、高効率となる。

無機E1のパネル化が完成すれば、やがて壁や天井全体を光らせることができるようになるかもしれません。ただ、そこまで到達するにはかなり高いハードルがあることも事実です。

また、他のわかりやすい例としては、色素増感太陽電池といつものがあります。色素と酸化チタンで太陽の光を電気に換える時

の太陽電池に比べて製造コストがずっと安いので、十分な耐久性が得られれば、ゆくゆくはシリコンの太陽電池に置き換わっていくでしょう。

このように太陽電池そのものの研究ではないものの、それに使用する材料を研究するうえで、われわれのテーマである界面といつことがこのポイントになります。いろいろな物質が組み合わさつて材料が出来ているわけですから、その組み合わせ方が非常に重要になってくるのです。そこに特化して研究しようといつのがわれわれの研究センターのメカニズムです。

開設当初からの13名の先生のほかに、今年から学内4名、学外で4名の新しい先生に加わつていただき、さらに研究を強化していきます。現在、世界でも最先端を行くようないくつもの研究の芽があります。今後はそれらをうまく育て、良い成果を生み出していきたくと考えています。

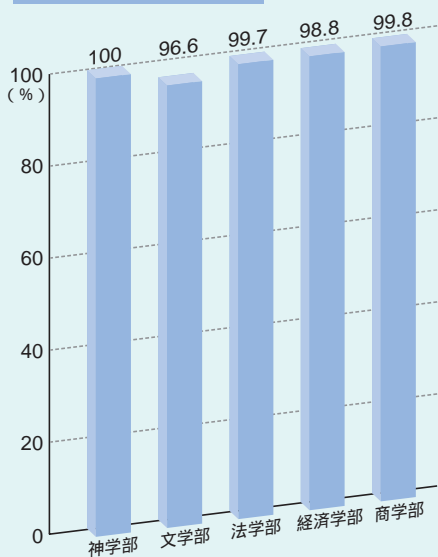
データでみる 同大生の 2006年度就職戦線

2006年度の就職状況は、就職率98.9%とほぼ昨年どおり好調に推移した。しかし、社会の変化の中で、企業は今後ますます、外国語運用能力、情報活用能力、人間関係を結ぶコミュニケーション能力、さらには問題発見解決能力など、自ら考え行動し成果をあげることができる潜在能力を持った自立した人材を求めている。このような変化の中で、みなさん自身がより高いキャリアを形成するためには、目的を持ち勉学やクラブ活動に充実した大学生活を送ることや、インターンシップ(注1)など学外の体験学習を通じて社会の動きを理解することが大切になる。

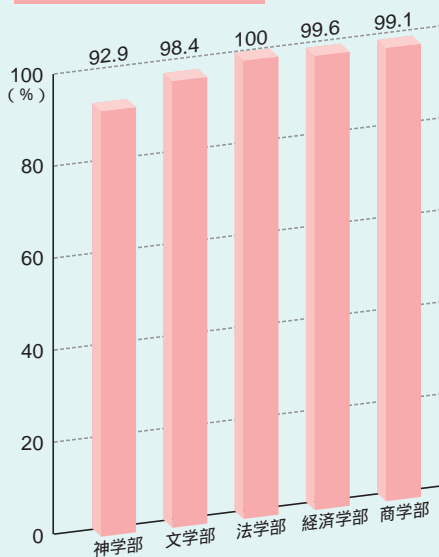
就職率

$$\text{就職率} = \frac{\text{就職者数}}{\text{就職希望者数}}$$

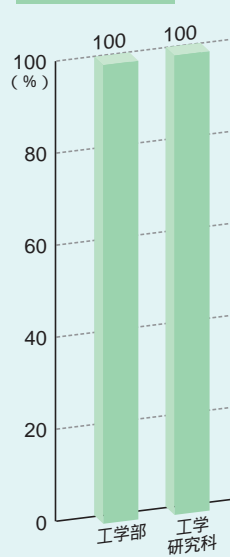
文科系学部・研究科 / 男子



文科系学部・研究科 / 女子



工学部・研究科

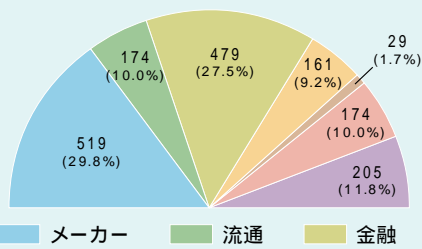


主な就職先と人数 会社名と人数

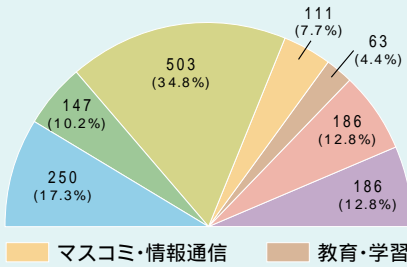
三菱東京UFJ銀行	82	トヨタ自動車	15	ダイハツ工業	9	レオパレス21	7	カゴメ	5
京都銀行	56	日本電気	15	野村総合研究所	9	伊予銀行	6	サイバード	5
みずほフィナンシャルグループ	49	村田製作所	15	堀場製作所	9	SMBCFレンド証券	6	新光証券	5
日本生命保険	48	クボタ	14	三菱UFJ信託銀行	9	NECシステムテクノロジー	6	JTB西日本	5
三井住友銀行	43	全日本空輸	13	リクルート	9	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ	6	住友ゴム工業	5
損害保険ジャパン	31	キヤノン	12	アデコ	8	京都府	6	積水化学工業	5
大和証券グループ本社	31	国家公務員I種	12	大塚製菓	8	サントリー	6	相互印刷紙器	5
東京海上日動火災保険	27	住友生命保険	12	サイバーエージェント	8	静岡銀行	6	東京都	5
ダイキン工業	24	大和ハウス工業	12	大王製紙	8	資生堂	6	東洋インキ製造	5
野村證券	24	富士通	12	大日本スクリーン製造	8	十六銀行	6	豊田通商	5
三井住友海上火災保険	24	アイシン精機	11	中国銀行	8	住友不動産販売	6	西島製作所	5
日興コーディアル証券	23	大阪府	11	帝人	8	泉州銀行	6	ドリコム	5
滋賀銀行	22	関西電力	11	テレウェイヴ	8	太陽生命保険	6	日新電機	5
京都市	21	ソフトバンクグループ通信3社	11	東レ	8	高島屋	6	日本基督教団	5
キーエンス	20	武田薬品工業	11	凸版印刷	8	大和証券エスエムビーシー	6	日本電産	5
関西アーバン銀行	18	大日本印刷	11	日本公文教育研究会	8	電通	6	ノヴァ	5
南都銀行	18	デンソー	11	日本郵政公社	8	東陶機器	6	ハウス食品	5
松下電器産業	18	豊田自動織機	11	アサヒビール	7	西日本旅客鉄道	6	阪急百貨店	5
インテリジェンス	17	日産自動車	11	アメリカンファミリー生命保険会社	7	日本興亜損害保険	6	日立システムアンドサービス	5
国税専門官	17	三菱重工業	11	エヌ・ティ・ティ・データ	7	兵庫県	6	富国生命保険	5
住友信託銀行	17	三菱UFJ証券	11	エン・ジャパン	7	富士ゼロックス	6	富士火災海上保険	5
第一生命保険	17	オムロン	10	大垣共立銀行	7	富士通関西システムズ	6	富士通デン	5
大同生命保険	17	京都信用金庫	10	オリックス	7	ブリヂストン	6	フューチャーアーキテクト	5
西日本電信電話	17	近畿大阪銀行	10	京セラ	7	あいおい損害保険	5	ブラザー工業	5
本田技研工業	17	ニッセイ同和損害保険	10	神戸製鋼所	7	愛知銀行	5	ベネッセコーポレーション	5
三菱電機	17	松下電工	10	商工組合中央金庫	7	朝日生命保険	5	毎日コミュニケーションズ	5
明治安田生命保険	17	楽天	10	ジェイテクト	7	イシダ	5	三重銀行	5
日立製作所	16	りそな銀行	10	広島銀行	7	伊藤忠商事	5	三井生命保険	5
池田銀行	15	イオン	9	福岡銀行	7	伊藤忠テクノソリューションズ	5	淀川製鋼所	5
京都中央信用金庫	15	キヤノンマーケティングジャパン	9	マツダ	7	INAX	5	リクルートエージェント	5
シャープ	15	島津製作所	9	三井トラストフィナンシャルグループ	7	NOK	5	リクルートスタッフィング	5
東芝	15	積水ハウス	9	みなと銀行	7	大林組	5	ローム	5

業種別内定状況

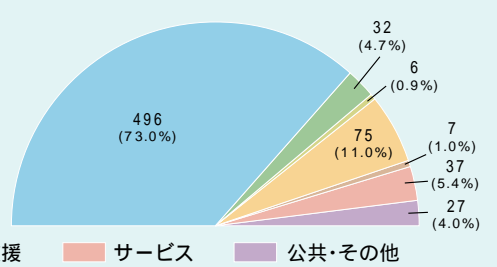
【文科系学部・研究科男子】(人)



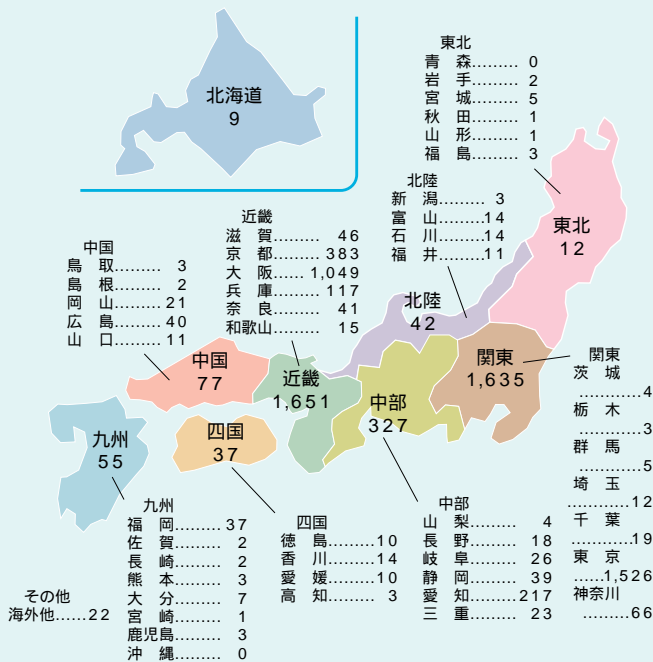
【文科系学部・研究科女子】(人)



【工学部・研究科】(人)

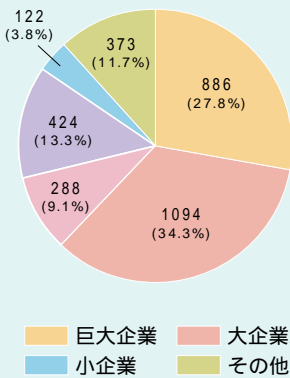


地区別内定状況(人)

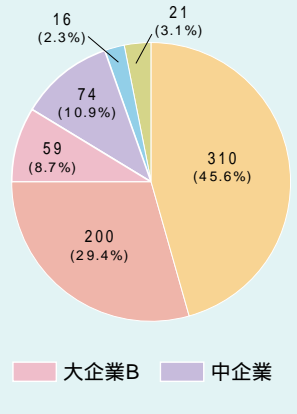


従業員規模別内定状況

【文科系学部・研究科】(人)



【工学部・研究科】(人)



(注) 巨大企業=従業員5,000人以上 大企業A=1,000人以上
大企業B=500人以上 中企業=100人以上 小企業=100人未満

データは2007年4月23日現在

(注1) インターンシップ

インターンシップは、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うことです。本学では正課科目「キャリア形成とインターンシップ」を2クラス開講しています。学生が大学で学んだ社会の諸課題と、その問題解決に向けての考え方、専門知識・理論との総合をはかり、その経験を通じて、より高い学習意欲を喚起しています。同時に、仕事、職業に対する興味・関心を高め、自らの適性や適職を考える大きな契機となることを願っています。その他にも企業主導型(公募制)のインターンシップもあり、キャリアセンターホームページ「仕事蔵(しごとくら)」(<https://shushoku.doshisha.ac.jp/shushoku/internship/index.htm>)でその一部を紹介していますので参考にしてください。



1日インターンシップ

1・2年次生向けに1日企業訪問する課外講座を実施しています。事前研究、グループワーク、企業訪問、卒業生との交流セミナー、事後レポート、成果報告会などを行う、トータルなキャリア形成プログラムです。働くことに対して学生の抱えているイメージと現実とのギャップを埋めるとともに、業界や社会の現状を認識し、学生生活における目的意識や知的好奇心の向上を図る絶好の機会となっています。関西圏だけでなく東京圏も企画され、マスコミコース、メーカーコース、官庁を訪問する霞ヶ関コースが実施されて盛況でした。2007年度も実施する予定です。

参加者の感想

自分を信じて、自分が動かないといけないということに気がきました。OB・OGの方々にいただいたアドバイス「常に目標は高く、限界を自分で作るな」「自分の本当に好きな事がわからなかったらとりあえず身を置いてみて、そこに進んでみよう」という言葉に、力をいただきました。(メーカーコース参加・法学部2年次生)

この企画に参加できたことは、目に見えない財産となりました。考えたことを行動に移していこうと思います。あの場で学び、感じたことを忘れずに、残りの学生生活と就職活動を精一杯やりますつもりです。「何か」を始めるきっかけくれた東京1日インターンシップに参加できたことを、とても嬉しく感じています。(マスコミコース参加・文学部2年次生)

仕事の内容に関して、事前に訪問先の省庁のことを調べていったにもかかわらず、その内容の幅広さに改めて仕事の大変さを感じた。しかし、お話を聞いて、働いている方が皆、その大変さを充実感・達成感に変えていることを知った。日本のために働いているという誇りを持って精神的にも体力的にもしんどい仕事をこなしておられ、仕事をするうえで一番大切なものは、仕事に対する誇りなのだと思います。(霞ヶ関コース参加・文化情報学部2年次生)

私立大学を取り巻く環境は、少子化や国立大学の法人化、急速な大学改革の進行により競争が激化しており、定員割れや経営破綻に陥る大学が現実のものとなっています。本学はこの間、教育改革、教育環境の整備充実、入試改革などに積極的に取り組んできましたが、今後も他の高等教育機関に先駆け、社会の期待に応えるために必要な構想・施策を実現していかなければなりません。

2007年度は、開設予定の生命医科学部およびスポーツ健康科学部の施設建設および設備整備を京田辺校地において進めます。また、全学共通教養教育センターの設置、競争的補助金による教育改革（現代GP、特色GP）の推進、寄付講座の充実など、特色ある教育活動の展開を促進します。さらに、文系学部の1・2年次教育を今出川校地で展開する方針のもと、大学将来構想の策定を進め、安定した財政基盤の維持に努めます。

2007年度予算は、帰属収入の安定的確保を図りながら、これらの優先的課題に配慮し、一方で経常経費の見直しを推し進めて、限られた財源を効率的に配分することを大原則に編成しています。

収入の部

学生生徒等納付金は、文化情報学部の学年進行により、前年度に対して1億円増の265億7千万円となる見込みです。これ以外の収入については、確実に収入が見込めるもののみを計上しているため（主な増減理由は表1に注記）、帰属収入合計は336億2千万円となり、前年度予算に対して8億1千万円の減収となっています。

第2号基本金取崩額は大規模な建設工事や研究装置等の取得資金に充当するもので、2007年度は生命医科学部棟およびスポーツ健康科学部棟の建設資金に24億円を充当します。

当期固定資産除却額9億5千万円は、固定資産（機器備品）の償却期間完了によるものです。

特定支出準備金取崩額の内訳は、過年度に受け入れたオムロン株式会社からの寄付金（オムロン基金プロジェクト宛）6千万円等です。

収入の部合計は371億6千万円となり、前年度予算に対して13億3千万円の増加となる見込みです。

支出の部

人件費は、教員充実計画に基づく実質増員分の経費、定期昇給の必要額等を見込んでおり、前年度に対して9億7千万円増の178億5千万円を計上しています。

事業費は、表1では教育研究経費（減価償却額を除く）、管理経費（同左）、施設関係支出、設備関係支出および予備費に仕訳されていますが、全体では対前年度39億2千万円増の総額179億2千万円を計上しています（事業別予算額は表2参照）。経常的経費については前年度予算を基準として計上し、管理経費については一部の重点項目を除いて極力節減を図ります。建設事業としては、京田辺校地における生命医科学部棟およびスポーツ健康科学部棟建設のほか、クラーク記念館保存修理、徳照館・神学館空調機更新（今出川）、ラグビー場人工芝敷設、陸上競技場全天候化、防災校地管理システム更新、中央監視盤更新（京田辺）などの事業を行います。

徴収不能引当金繰入額6千万円は、学費および学

資貸付金の回収不能額に対する引当金に繰り入れる額です。繰入金には、高等学校への資金調達額9億9千万円を計上しています。

第2号基本金組入額の内訳は、教学施設整備資金14億円、情報基盤整備資金1億円であり、いずれも組入計画に基づくものです。

特定支出準備金繰入額の内訳は、中高統合事業に関わり、中学校移転に要する経費などです。

支出の部合計は431億9千万円となり、前年度予算に対して68億円の増加となります。

収支差額の部

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた当年度消費収支差額は、60億3千万円の消費支出超過となります。消費支出準備金を取崩すことにより、最終的には26億1千万円の消費支出超過となる見込みです。

（本文中の金額については1千万円未満を四捨五入しています）

主な新規事業

（単位：千円）

教育研究条件の整備充実	
外国語能力テスト等の実施	14,700
司法研究科の教育支援 （アカデミック・アドバイザー制度充実、判例法令DB整備他）	43,460
高大連携教育事業の実施	2,370
「教育実習の研究」ゲストスピーカー制の実施	730
徳照館図書整理	2,470
中野譜庫の整理	1,220
新島1日邸文庫目録の作成	610
教育ソフトウェアの新規導入・追加ライセンス購入	5,200
ラーネード記念図書館利用者ガイダンスの充実	1,660
第3期南山城総合学術調査の実施	1,390
マニュアルの整備（ITサポート、産学連携）	5,530
グローバルCOE申請に向けての重点的支援	37,750
競争的補助金獲得の支援	35,000
国際戦略体制の強化	20,000

教育研究環境の整備	
神学館図書閲覧室の改装・整備	5,810
至誠館研究室の改装・整備	8,050
工学部実験実習環境の改修	3,930
寒梅館ビジネス研究科図書室の整備	2,150
香柏館書庫の整備	30,190
正課体育施設設備の整備	16,560
図書館施設設備の整備	5,150
大学院生共同研究室ネットワーク利用環境の改善	16,380
教室および貸出用マルチメディア、AV機器の更新	104,990
マルチメディアコンテンツ作成環境の整備	1,710
京田辺校地教室マイク設備管理システムの改修	92,650
教室音響設備の更新	19,040
今出川校地マイク調整室の整備	14,120
教務事務環境の整備（教務システム修正、事務機器更新）	40,590
証明書発行機の更新	7,140
Neesima Room 企画展の充実	970
扶桑館研究施設情報機器の更新	2,790

学生生活支援の充実	
課外活動施設（ホール）の整備	15,720
課外活動施設（福利厚生施設）の整備	5,000
課外活動施設（体育施設）の整備	4,950
海外インターンシップ実施に向けての調査	360
三木木・同志社大学間バス運行への補助	13,140

企画広報活動・管理運営	
開設予定学部の広報	50,800
既存学部・大学院等の広報充実	23,630
ビジネス誌による広報企画	13,630
その他広報事業の充実（広報企画の立案など）	3,750
地方試験場増設に伴う広報充実	5,000
「春のキャンパス見学会」の実施	2,000
認証評価報告書の作成	4,560
薬品管理の一元化	6,270
戦略的知的財産管理体制の構築	2,440

施設設備更新・省エネルギー化	
今出川校地施設設備の更新 （アスベスト除去工事、神学館・弘風館・イ・イ、尋真館窓サッシ改修）	138,520
京田辺校地施設のライフサイクル修繕 （図書館空調、多目的ホール空調）	51,310
学研都市キャンパスの整備	21,470
京田辺校地省エネルギー化事業 （工学部エリア空調熱源更新）	30,000

建設事業（本年度支払予定額）			
生命医科学部棟の建設（京田辺）	3,705,000	徳照館・神学館の空調機更新（今出川）	160,000
スポーツ健康科学部棟の建設（京田辺）	544,600	防災校地管理システムの更新（今出川）	23,280
クラーク記念館の保存修理（今出川）	364,270	防災校地管理システムの更新（京田辺）	144,900
ヨット部合宿所の改修	40,000	中央監視盤の更新（京田辺）	52,000
ラグビー場人工芝敷設（京田辺）	144,940	体育地区インフラ改修（京田辺）	38,000
陸上競技場全天候化（京田辺）	100,000	歴史資料館収蔵庫の建設（京田辺）	26,600

2007年度収支予算書(表1)

2007(平成19)年4月1日から2008(平成20)年3月31日まで

(単位:千円)

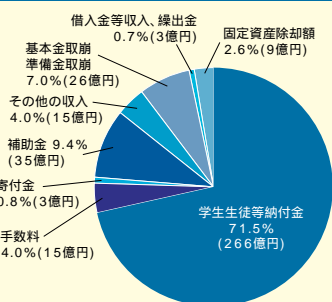
収入の部				
科目	予算	前年度予算	増減	主な増減理由
学生生徒等納付金	26,566,720	26,463,000	103,720	文化情報学部(2005年度開設)の学年進行に伴う増収
手数料	1,466,600	1,392,600	74,000	入学検定料の収納見込増
寄付金	289,400	451,950	△162,550	寄付教育研究プロジェクト研究活動あて寄付金等、収納が確実なもののみ計上
補助金	3,504,950	3,679,570	△174,620	経常費補助金、クラーク記念館保存修理事業補助金等を計上
資産運用収入	480,320	407,830	72,490	運用利率上昇
資産売却差額	0	0	0	
事業収入	171,010	483,010	△312,000	前年度は知的クラスター創成事業あて他受託事業収入あり
雑収入	725,630	676,660	48,970	退職者の増加見込に基づく退職金財団交付金収入の増額
繰出金	274,000	746,250	△472,250	法人内資金調達の返済完了に伴う減
分担金	146,110	134,990	11,120	
帰属収入合計	(33,624,740)	(34,435,860)	(△811,120)	
第2号基本金取崩額	2,400,570	30,000	2,370,570	生命医科学部棟およびスポーツ健康科学部棟の建設資金への充当分
当期固定資産売却額	954,470	1,258,060	△303,590	1997年度取得固定資産の一括売却
前年度基本金組入繰延額	0	0	0	
借入金等収入	0	0	0	
当期末未払金	0	0	0	
基本金繰入額・未組入額計	(3,355,040)	(1,288,060)	(△2,066,980)	
特定支出準備金取崩額	184,980	108,090	76,890	
収入の部合計	[37,164,760]	[35,832,010]	[1,332,750]	

支出の部				
科目	予算	前年度予算	増減	主な増減理由
人件費	17,847,430	16,873,660	973,770	教員増員、定期昇給の必要額
教育研究経費	11,753,170	12,279,390	△526,220	主な新規事業参照
消耗品費他	8,443,070	8,998,940	△555,870	
減価償却額	3,310,100	3,280,450	29,650	建物、備品等固定資産の増加
管理経費	1,238,030	1,250,090	△12,060	主な新規事業参照
消耗品費他	1,166,900	1,178,430	△11,530	
減価償却額	71,130	71,660	△530	
借入金等利息	59,100	69,160	△10,060	借入金残高の減少
資産処分差額	0	0	0	
徴収不能引当金繰入額	60,420	59,500	920	
繰入金	990,000	0	990,000	高等学校への資金調達額
予備費	210,000	100,000	110,000	経理規程(経常勘定における帰属収入の7/1000以上を計上)に基づく
消費支出合計	(32,158,150)	(30,631,800)	(△1,526,350)	
施設関係支出	5,259,040	2,244,860	3,014,180	主な新規事業参照
設備関係支出	2,841,340	1,475,760	1,365,580	主な新規事業参照
翌年度基本金組入繰延額	0	0	0	
借入金等返済支出	305,250	354,780	△49,530	一部借入金の返済完了に伴う減
前期末未払金	0	51,680	△51,680	
第2号基本金組入額	1,500,000	1,500,000	0	
第3号基本金組入額	0	0	0	
第4号基本金組入額	104,700	58,000	46,700	学校法人会計基準に定める「恒常的に保持すべき資金の額」との差額を組入
基本金組入額・当年度組入額計	(10,010,330)	(5,685,080)	(△4,325,250)	
特定支出準備金繰入額	1,024,540	77,930	946,610	中高統合事業に関わり、中学校移転に要する経費
支出の部合計	[43,193,020]	[36,394,810]	[6,798,210]	

収支差額の部			
科目	予算	前年度予算	増減
当年度消費収支差額	(△6,028,260)	(△562,800)	—
消費支出準備金繰入額	0	0	—
消費支出準備金取崩額	3,413,770	1,062,320	—
繰入取崩後消費収支差額	(△2,614,490)	(△499,520)	—
前年度繰越消費収支差額	[△22,953,900]	[△23,453,420]	—
翌年度繰越消費収支差額	[△25,568,390]	[△22,953,900]	—

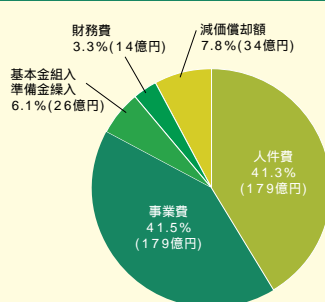
収支構成図

収入の部



収入の部合計 372億円(うち帰属収入 336億円)

支出の部



支出の部合計 432億円(うち消費支出 322億円)

事業別予算書(表2)

(単位:千円)

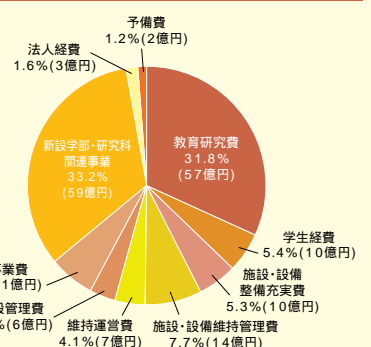
事業別予算総括表	
事業項目	予算
人件費	(17,847,430)
事業費	(17,920,350)
基本金・準備金	(2,629,240)
財務費	(1,414,770)
減価償却額	(3,381,230)
支出の部合計	[43,193,020]

事業費内訳	
事業項目	予算
教育研究費	(5,698,010)
研究費	1,670,710
研究所経費	111,040
実験実習費	663,100
教育研究援助費	758,350
情報処理教育研究費	801,720
学術情報整備充実費	373,150
国際交流関係費	196,200
入学試験経費	583,720
教学事務運営費	540,020
学生経費	(964,990)
奨学援助費	455,720
学生生活助育費	415,330
学寮費	93,940
施設・設備整備充実費	(958,110)
施設・設備維持管理費	958,110
施設・設備維持管理費	(1,377,510)
施設・設備維持管理費	1,377,510
維持運営費	(741,500)
通信費・光熱水費	741,500
一般管理費	(626,150)
一般管理費	483,320
教職員福利厚生費	142,830
特別事業費(建設事業等)	(1,108,130)
新設学部・研究科関連経費	(5,944,400)
法人経費	(291,550)
予備費	(210,000)
事業費小計	[17,920,350]

基本金・準備金内訳	
事業項目	予算
第2号基本金組入額	(1,500,000)
教学施設整備資金	1,400,000
情報基盤整備資金	100,000
第3号基本金組入額	(0)
第4号基本金組入額	(104,700)
翌年度基本金組入繰延額	(0)
前期末未払金	(0)
特定支出準備金繰入額	(1,024,540)
基本金・準備金小計	[2,629,240]

財務費内訳	
事業項目	予算
借入金等返済支出	(305,250)
借入金等利息支出	(59,100)
資産処分差額	(0)
徴収不能引当金繰入額	(60,420)
繰入金	(990,000)
財務費小計	[1,414,770]

事業費内訳



事業費内訳計 179億円(うち教育研究費 57億円)

CAMPUS NEWS

キャンパスニュース

元阪神タイガース片岡篤史氏 新入学生歓迎特別講演会を開催

4月17日(火)、本学卒業生で、プロ野球・阪神タイガースを昨年引退、現在テレビ、新聞で野球解説者として活躍する片岡篤史さん(1992年商学部卒)を迎え、京田辺校地ハコボールで新入生歓迎特別講演会を開催した。1969年京都府久御山町生まれ、PL学園高時代の1987年に甲子園春・夏連覇、大学時代には3年次の1990年明治神宮野球大会で優勝した経験を持つ片岡さんは、1991年ドラフト2位指名で日本ハムファイターズに入団、1年目からレギュラーポジションを奪取し、不動の3番打者として活躍。その後、2002年にFA宣言し、生まれ育った関西の球団である阪神タイガースに移籍、翌03年と05年のリーグ優勝に貢献した。

先輩に桑田真澄(元巨人)、清原和博(現オリックス)の両選手、同期に立浪和義選手(現中日)、橋本清さん(元巨人)、野村弘さん(元横浜)が在籍したPL学園時代を、生きるか死ぬかというところまで追い込まれた場所だったと振り返りつつ、そこで身につけた「感謝の気持ちを持って、不足を言うてはいけない」という教えを今も大切にしているという片岡さん。立浪、橋本、野村の同級生3人がプロ入りする中、「どっついても行きたかった」と同志

社大学へ進学。大学時代には、同学年にメジャーリーグのカーシナルスで活躍する田口莊選手(当時関学大)、1年上と同じくメジャーで実績を残した長谷川滋利さん(同立命館大)、そして大学の先輩には、バルボロナ、アトランタ両五輪に日本代表として出場した杉浦正則さん(現日本生命野球部監督)がいた。「同志社の野球部では、社会人になつてから通用するように挨拶や礼儀なども厳しく指導された。自分にとってとても大



アで観客を湧かせた。「新たな可能性を求めて」阪神に入団した後については、「優勝したことより、33歳で秋季キャンプに参加し、若手に混じって泥にまみれたことが一番思い出に残っている。残した数字には悔いが残るが、自分がかちてきたことには何の後悔もない。引退する試合のその日まで、誰よりも早く行って若手と一緒に練習をした。それが自分の誇り」と語った。

そして同志社大学の後輩に「大学時代にできなかったのは何にも代えがたい宝物になる。大事にしてほしい」と呼びかけ、「貴重な4年間を何か目標を持って突き進む、そういう姿勢を持ってほしい。成功するか失敗するかは、結果でしかない。目標に向かって頑張ることに価値がある。私も新しい道に入って日々勉強しながら頑張っていくま」と締めくくった。在学生、教職員、一般市民など約350人が講演に熱心に聞き入り、多数の質疑応答が行われるなど、盛況のうちに幕を閉じた。

スポーツ健康科学部棟(仮称) 起工式

4月4日(水)、2008年度設置(届出手続中)のスポーツ健康科学部棟(仮称)の起工式が京田辺校地の建設予定地で執り行われた。工事は盤上館の南側に増築する形で実施される。延床面積は増築部分が約2,675㎡で、既存部分の約1,539㎡と合わせると約4,200㎡と



なる。構造は鉄筋コンクリート造の3階建て完成は2008年1月を予定している。設計は株式会社類設計室が、施工は吉村建設工業株式会社がそれぞれ担当する。

起工式には、施工関係者および本学教職員合わせて約50人が参列した。大谷實総長は式辞の中で、「スポーツ健康科学部は、多角的かつ科学的な視点からスポーツと健康について学び、現代人が抱える心とからだの問題の解決ができる人材育成を目的とします」と述べた。引き続き、大谷實総長、野本真也理事長、八田英二学長、阿部紘氏(株式会社類設計室取締役副社長)、吉村公一氏(吉村建設株式会社代表取締役社長)の5人による鍬入れが行われた。

八田英二学長は、2008年度から新たな2学部を加えた京田辺キャンパスが、理工系学問の拠点として地盤を固めていくことを期待しています」と挨拶した。

最後に、野本真也理事長の祝福をもって起工式は無事に終了した。

(京田辺校地施設課)

同志社大学の募金事業

本学では、建学の精神に基づき「教育研究事業を将来にわたって維持発展させていくために、かねてからご父母、教職員はもとより広く社会全般に向けて募金の協力をお願いしてまいりました。

昨年度は、教育研究活動を展開する施設設備の整備を目的とした「教育研究施設等整備募金」、経済的困難に苦しむ学生を支える特定寄付奨学金制度の資金に充てる「奨学金資金募金」、次代を拓く情報教育プロジェクトを支援する「同志社ローム記念館プロジェクト・サポート募金」、京田辺校地ラグビー場の整備を進めるための「体育施設ラ

2006年度 募金事業実績報告書

募金事業	寄付件数および金額	使 途
教育研究施設等整備資金募金	在学学生父母 528件 46,016,280円 卒業生、一般、法人 35件 117,593,905円 計 563件 163,610,185円	京都府南部に学研都市キャンパスを設け、医工連携を含めた理工系施設の拠点として快風館を整備するなど、施設整備資金として活用 建設事業の詳細は、学校法人同志社発行「事業報告書2006」(同志社大学2006年度の事業実績)に記載しています。
奨学金資金募金	卒業生、一般、法人 28件 15,490,000円 教職員 59件 5,931,000円 計 87件 21,421,000円	2006年度に実施した特定寄付奨学金給付の資金として活用 給付件数35件、給付総額10,500千円 残額は2007年度と同奨学金資金として繰越
体育施設(ラグビー場人工芝)整備資金募金	卒業生、一般、法人 253件 53,102,000円 教職員 16件 1,312,000円 計 269件 54,414,000円	京田辺校地ラグビー場人工芝整備に係る資金として活用
同志社大学社会学部 社会福祉学科・ 大学院社会学研究科 社会福祉学専攻 開設記念募金	卒業生、一般、法人 113件 3,703,000円 教職員 20件 3,165,000円 計 133件 6,868,000円	社会福祉学科開設記念行事、社会福祉学科学生の教育支援、社会福祉学科教員の研究・研修支援等に係る資金として活用
同志社ローム 記念館プロジェクト・ サポート募金	卒業生、一般、法人 4件 8,750,000円 教職員 11件 232,500円 計 15件 8,982,500円	2006年度に実施した同志社ローム記念館プロジェクト(教職員、学生、生徒と産・官・学・地域の連携によるプロジェクト)の支援資金として活用

グリー場人工芝整備資金募金、社会福祉学科開設を記念して同志社の社会福祉のさらなる発展のための「同志社大学社会学部社会福祉学科・大学院社会学研究科社会福祉学専攻開設記念募金」など、数々の募金事業を行いました。これに対してご父母、卒業生、法人、教職員など多方面からご協力をいただき、集まった資金を活用して所期の事業を滞りなく実施いたします。これも皆様方の深いご理解の賜物と、厚く御礼申し上げます。2006年度の募金事業の実績についてご報告いたします。

なお、奨学金資金募金では3月末までに、卒業生および教職員の方々から左記のとおりご協力をいただきました。

2006年度協力者(芳名)

(2007年2月5日3月申込分 順不同 敬称略)

〔卒業生(ご父母、一般)〕

10,000円 片桐実

〔教職員〕

30,000円 石田修一

ご芳名のみ

二村宏江 稲野昂央 脇田里子

105,000円(匿名合計) 匿名2人

*教育研究施設等整備資金募金、体育施設整備資金募金、プロジェクトサポート募金、社会福祉学科開設記念募金の3つ芳名につきましては、別途芳名録を作成しご寄付いただいた方々にお送りいたします。

これらの募金事業については、本年度以降も社会各界に対して継続的に呼びかけを行ってまいりますので、引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(財務部資金課)

今出川キャンパスに

「SAN FRANCISCO COFFEE」が開店



4月2日(月)
今出川キャンパス明徳館1階学生ライオンズ内に日本国内初出店となるコーヒーショップ「サンフランシスコ」がオープンした。「SAN FRANCISCO COFFEE」はアメリカ「STARBUCKS COFFEE」のライセンスラー2人と多くのコーヒー専門書を著作に持つ専門家が中心となって設立されたコーヒーショップで、上質のマラチノ種のコーヒー豆を用いた独自のブレンドと製法で滑らかに深い「カラのある」コーヒーを提供する。店舗の業種はセルフ方式のコーヒーショップで、営業時間は平日が8:30～19:00、土曜が10:00～18:00(日曜および本学長期休暇中は休業)。本学教職員と学生は、定価の10%OFFで購入できる。

500㎡のラグビート場全面に人工芝を敷設した。人工芝はドイツ製(Polytan社)で4層構造、モノフィラメント製法によるものであり、芝葉の先は割れにくく、肉厚で芝葉が柔らかいのが特徴である。芝葉が厚いため、充填物が固まりにくく、選手が滑り込んだ際に捻挫などの怪我が少ない。またグラウンドの周囲にはウエイトトレーニング施設を新たに設置した。総工費は約1億5千万円、うち約5千万円は企業や卒業生、教職員の浄財により賄われた。

ラグビート場人工芝敷設 オープニングセレモニー

4月17日(火)京田辺校地ラグビート場で人工芝敷設オープニングセレモニーが行われた。今年1月に工事を開始し、約14、

追悼記念礼拝

JR福知山線脱線事故及び
福島でのバス事故から2年を覚えて

JR福知山線脱線事故から2年目を迎えた4月25日、同志社礼拝堂で追悼記念礼拝が行われた。この事故で本学学生3人が犠牲となり、25人が怪我を負った。またその3日後に起きた福島でのバス事故により、1人が犠牲となった。追悼記念礼拝には、遺族や友人をはじめ、学生や教職員など約300人が参加し、祈りを捧げた。



式典の挨拶では、八田英二学長が、陸上競技場など、さらなる体育施設の充実化を図り、新たに設置されるスポーツ健康科学部の授業でも有効に使っていきたい」と述べ、ラグビート部については、国内での活躍にとどまらず、世界の同志社ラグビートへ発展して欲しい」と激励。式典の後に行われたミーティングでは、選手たちが生き生きとしたスマイルを披露した。晴天の下、新しくなったグラウンドでは人工芝のグリーンと「DOSHISHA」文字の入ったゴールポストの紫が、色鮮やかに輝いた。(京田辺校地施設課)



「脱」の世界―正常という虚構

岸文和 他執筆 風媒社 3,500円

アメリカ史の中の人種

山田史郎 著 山川出版 7,299円

世界の立役者ベンサム

戒能通弘 著 (株)日本評論社 5,000円

刑法講義総論「新版第2版」

大谷實 著 成文堂 4,000円

刑法講義各論「新版第2版」

大谷實 著 成文堂 4,000円

幕制から弥生社会を考える

若林邦彦 他執筆 六書房 3,500円

土器研究の新視点

若林邦彦 他執筆 六書房 3,800円

日本官僚制の連続と変化

ライオンズ総ランバーストリー 編 藤本昌代 他執筆 ナカニシヤ出版 15,000円

民事執行法・民事保全法

福永有利 著 有斐閣 2,300円

むらの社会を研究する

庄司俊作 他執筆 農山漁村文化協会 2,095円

グローバルゼーションとアジア

布留川正博 編著 他多数執筆 ミネルヴァ書局 5,000円

アメリカ研究の理論と実践

佐々木隆 監修 和泉真澄 他執筆 世界思想社 2,200円

Portrait Session

清水雅 他執筆 (株)大和ライオンズ製作所 4,000円

本学教員執筆図書を紹介

(総合情報センター調べ)価格は税別

「勤く! 大化け前の関西元気企業」

神内治さん(1981年文学部卒)
現代創造社 1,600円(税別)

「新島襄とその周辺」

太田雅夫さん(1954年法学部卒)
青山社 2,500円(税別)

卒業生の新刊図書

株式会社片山商店代表取締役

片山象三さん に聞く

インタビュー
佐野恵さん
経済学部4年次生



佐野 片山さんは第1回「ものづくり日本大賞」の内閣総理大臣賞を受賞されたというのですが、受賞の対象となつたのはどのようなものですか。

片山 高級ブランド向けの織物を、多品種小ロットでつくる生産システムを開発したのです。これまでは、織物の色柄を変える度に織機を止め、新たに縦糸を準備し直す必要がありました。それを、順番に色をつないでいくことによって、任意の長さで異なる色を持つ縦糸を作るようになったのが「アレンジワインダー」という機械です。その機械を既存の大量生産の設備の中に組み入れることにより、多くの種類の織物を少ない量で生産できる、世界初のシステムを作つたのです。実は織物の縦糸を作る工程は、10着作るのも1万着作るのも、手間はそう変わらないのです。だから「ロットが小さい」といふものすくなく「コストがあがる」。しかしこの機械で5つの色の縦糸を作ると、極端に言えば「コストは5分の1になります。色数が多ければ多いほど、ロットが小さければ小さいほど、この機械の効果が出てくるわけです。

佐野 どうしてそのようなシステムを作ろうと考えられたのですか。

片山 一応兵庫県西脇市の地場産業である播州織物は、2000年の歴史を持っています。ところが、1988年をピークに生産量も出荷額も右肩下がりで落ち込んでおり、生産量は最盛期の3分の1にまで減っています。その理由は中国にあります。少ない品種のものを大量に作るつとすれば、人件費の安い中国には到底太刀打ちできない。アパレル

メーカーも「コストの高い国内製造から切り替え、中国ソフトを急速に進めました。今後織物産地が生き残っていくには、多品種小ロットで付加価値の高い製品を作るしかありません。言葉で言うのは簡単ですが多品種小ロット生産はどんな製造現場においてもコストアップになります。高コストのものを安く

め、の仕組みを作つて、何より国内にものづくりに残したい、そんな思いがありました。

佐野 片山さんは同志社大学を卒業されて、すぐ今の仕事に就かれたのですか。

片山 いえ、卒業後は京都の村田機械に入社したのです。その後、家業を継ぐことを決め、いったん別の繊維機械のメーカーに転職、機械について勉強したついで、89年に家業

片山 象三さん

【1983年商学部卒業】
株式会社片山商店代表取締役

1961年生まれ、兵庫県出身。大学卒業後、村田機械に入社。津田駒工業を経て、1989年片山商店(本社:兵庫県西脇市)入社。2000年から現職。2004年、中小企業庁長官賞(全国繊維交流プラザ)、2005年、多品種小ロット織物生産システムで第1回ものづくり日本大賞内閣総理大臣賞を受賞。地場産業である播州織物の活性化をめざし、「世界初」の繊維機械開発に心血を注ぐ。



ロット...生産や出荷の単位としての、同一製品の集り。(広辞苑 第五版)



写真左:兵庫県立工業技術センター 藤田 浩行さん(1987年工学部卒)

織物から大量に発生する半端な残糸をつなぎ、カラフルな織物を作る技術を片山商店と兵庫県立工業技術センターが共同開発し、ともに第1回「ものづくり日本大賞」の内閣総理大臣賞を受賞。

に戻ってきました。商学部出身ですから、最初に入った村田機械では営業職でした。しかし、ちょっと伸び盛りの時期で人手不足というところもあり、自分で売った機械をメンテナンスまで担当する人が多かった。その時、独学で機械について勉強したことが今になって生きていると感じますね。営業の経験しか

なかった会社で儲かるかという点、実際は

それほど儲かしていません(笑)。現実はまだ開発費がへいするところまでは到達していませんので…。どんな製造業でも大量生産型の仕組みが大半です。それをリブリースするのはものすごく経費がかかるのです。しかし、私は機械を作るのと同時に生産現場にもいろいろな工夫をしました。従来の大量生産の仕組みをそのまま生かせるようにしたのです。そもそもの発想はあくまで産地が生き残るためにはどうすればいいのかということとです。繊維産業はこの地域の基幹産業ですから、雇用も含めて地域を支える産業を何とかして残していかなければならない。そういう社会的意義も考えなくてははいけません。

佐野 私は今、経済学部の4年次生ですが、介助が必要な障害者の方やお年寄りに旅行を楽しんでいただけるようサポートする事業を立ち上げました。片山さんは業界への危機感それに対する問題意識から何とかしないといけないという思いを持たれたということですが、私の場合も、高齢で介護が必要な祖母と一緒に家族旅行に出かけた時、入浴させるのに母が大変苦労したのを見て、誰かほんの少し手を貸してくれると助かるのにな、と思ったことが、人の手を提供するサービスを考えるきっかけでした。

片山 社会的意義という点ではすごく良いところに着眼されたと思いますね。でも、ビジネスとして考えると案外ではないでしょうか。私自身も、確かに社会的意義のあるものとして取り組んでいますが、課題はいかにしてビジネスとして成り立たせるかなのです。そのためには、私たちがやっていることを真似する人が出てきて、広がっていくかなくてはいい。そして広がるには、自分たちが利益を出していかないとはいけません。単なるボランティアで終わってしまえば駄目なものです。

佐野 私の場合もまさにそうですね。この事業を大手の旅行会社がありやらないのは、手間がかかってリブリースが難しいと判断しているからです。私がきちんとしたビジネスモデルを作ってボランティアではなく、この事業として確立すれば、もっと広がって市場も拡大していくと思います。

片山 ビジネスとして成り立たせるには利益を出さないとはいけません。自分たちが自分の会社だけ儲ければいいのではありません、それは違います。例えば、アメリカンシワイターは、ヨロバ南米にも販売しています。世界で優秀な繊維機械を作っているのは日本とヨロバですが、今は繊維機械の7割が中国に極集中しています。ヨロバや南米にとっても、共通の競争相手は中国なのです。だからいくら機械の大量オーダーがあっても、中国には売っていません。中国に販売すると儲かることは確かですが、それでは中国に對抗して国内でものづくりを、という本来の目的から外れてしまい、何のために開発したのかわからなくなってしまうのです。

佐野 確かに、自分だけが儲けようと思ったから誰も協力してくれないと思います。04年、台風の被害で機械がスクラップ同然になった時、メーカーの人が徹底的に分解掃除して新品同様に戻してくれたというお話があると聞きました。こういうイベントもやはり自

片山象三さんに聞く

分だけではなく、業界全体を良くしたいといつ片山さんの思いがあったからなのでしょ
うね。

片山 ありがとうございます。そもそも儲けるというのはいい服を買いたいとかいい車に乗りたいたとかそういう目的ではないのですよ。利益を上げて次には何をするかこんなことができるのかと驚かれるその瞬間がすごく嬉しいからやっているのですね。

佐野 さんもたぶん私と同じようにお客さんなこんな事もしてもらって良かったと言つてくれるその一言がものすごくエネルギーになっているんじゃないでしょうか。

佐野 もちろんそれはあります。よく言われるのは普段家族が介助をしているけど往々にして「ここまでできない」といつ思い込みがある。でも、私たちのような第三者がサポートすると「こんなまでできるの」といつ新しい発見があるそういうのです。そのような反応はこの仕事をしていくうえですごくモチベーションを高めてくれます。「旅のお手伝い 楽業」という名前ですが私たちの仕事は決して楽ではありません。片山さんが取り組んでおられる開発も大変だと思いますがやめたいと思われたことはないのでしょうか。

片山 それはないですね。開発はすごくおもしろい。いろんなテクノロジーがありま
すし他の分野のものを見ているとさまざまな発想が出てきます。実は私は開発を始める時に、世界で初めてというものを3つ作り
たいと考えたのです。まず1つ目が斜め織り織機、普通の織物は縦糸と横糸が90度で

交差するのですがそれを45度で交差させて織る専用機を05年に開発しました。斜め織りの素材は産業用ヘルトなどに使うと柔軟性が上がり伝導口が減って省エネ効果があるのです。2つ目が、最初にお話した多

品種小ロット生産システム。そして3つ目が「織物試験システム」。中国と同じように中国の2分の1の納期で中国の2倍品質



の良い織物を作る仕組み」と言っているのですが今ちょうど開発の途中です。これらすべて大手企業があまり手がけようとしてい
ないものばかりなのです。常識に捉われない
はできないという点でも共通しています。佐
野さんも同じではないかと思いますが常識
に捉われず、いかに他の分野のものと融合さ
せていくかも大事ですね。

佐野 有料老人ホームに付加サービスとして組み込んでもらったりして旅行の窓口が

ら入るのは違う仕組みを作っていくという
ているのですが今後どれだけ広げていける
かが課題です。最後になりましたが片山さ
んにどうして同志社大学での4年間はどうな
ものだったのかを聞かせてください。

片山 いろんな人がいてものすごく自由で
何がしようという時に仲間が集まってけれ
る。同志社というのとはそんな大学ですね。「あ
いつがやるのなら助けてやろう」という雰囲気
があるのです。そのような大学で4年間
過ごしたことが、機械の開発に当たって村
田機械、兵庫県工業技術センター、そして地
元の人たちがみな協力してくれたことに
つながっています。1人では何もできなかった
だろうし、誰かが欠けてもできなかった。全
体のことを考えて、1つの目的に向かって進
んでいく。まさにランパーパスですね。そうい
う意識の土壌を作ってくれた大学に、今す
ごく感謝しています。

佐野 私も今の仕事を始めてから同志社
の卒業生の方などいろいろな人たちに協力
いただいた。だんだん形になってきました。ヘル
パー、看護師などスタッフはもちろん旅行会
社の人にパートナーになってもらったり、事務
所、電話も知り合いの会社に置かせてもら
たり、それこそいろんな人たちの力を借りな
がらやっています。今日は片山さんのお話が
聞けてとても勉強になりました。

片山 私のほうこそ、素晴らしい先輩とお
話ができてとても良い時間でした。お互いに
これからも頑張っていきたいと思います。

INTERVIEWER



佐野 恵一さん

経済学部4年次生

2005年12月、同志社大学第2回ビジネスプランコンテストで最優秀賞を受賞。その後、介助者の派遣を含めたバリアフリー旅行の企画を行う「旅のお手伝い 楽業」を起業。登録スタッフ5人を抱え、学生ベンチャーとして奮闘中。

お話し全てが勉強になり、私の糧になりました。

今回、片山さんとお話をする事ができて、とても勉強になりました。ビジネスの分野は全く異なりますが、めざしていることや今後の課題など、共通した部分が多く、お話しいただいたこと全てが私のこれからの糧になります。片山さんは「佐野さんのビジネスが、事業として成り立つ社会にならないと駄目ですね」と言ってくださいました。私の事業も今年8月には法人化する予定ですが、今後きちんとしたビジネスとして確立していくにはいろんな壁があるはずですが、片山さんからいただいた励ましの言葉を大事に、これからも頑張っていこうと思います。

このシリーズは、毎号さまざまな分野で活躍する卒業生を訪ね、仕事に何を求め、仕事を通して何を考えてきたかを取材しています。級友の方々にとっては良き近況報告、学生諸君には将来のキャリア・プランと学生生活の現実を考える機会になれば幸いです。

さまざまな人の人生と関わる 弁護士は、一生続けていききたい仕事



そのためか依頼者の方がわりと気軽に相談に来られる事務所になっています。弁護士としての私の仕事もいわば町医者のようなもので、離婚、破産、相続、貸借のトラブル、売掛金の回収…身の周りのどこにでもあるようなトラブルが中心です。そうした民事事件を多く扱い、さまざまな人たちの人生を見ていると、いかに自分が恵まれているかということが気付かされたり、また、気の毒な境遇でも頑張っている方に、逆に私の方が励まされたりすることがあります。人生はまさにドラマよりも劇的で、一人一人の人生から得るものがたくさんあるのです。

張りが利いたのだと思います。今、弁護士として大切に行っているのは誰に対しても尊敬の気持ちを持って接するということです。依頼者の話を聞く場合でも、その人の立場に立ち考え、その人が人生の中で積み重ねてきたものを汲み取れるように心がけています。事件の本質に迫るためには、その人を理解することが何より重要なのです。依頼者の話をじっくり聞き、本当の気持ちに近づけるようにしたい。そうすれば自然に相手も心を開いてくれ、事務所を出て行かれる時には表情も明るく変わっているのです。人の役に立っていることを実感し、この職業を選んで本当に良かったと感じる瞬間です。

法学部を卒業して3年目に司法試験に合格しました。弁護士になってしばらくは事務所に所属していましたが、その後、結婚と出産を経て独立しました。それがちょうど弁護士になって10年目を迎える年でした。当時は子育てと仕事の両立に不安もありましたが、自分のペースで仕事を続けていきたいという気持ちで強く、独立して事務所を構える決心をしました。

法試験だけを目標にするのではなく、習い事やアルバイトにも精を出す普通の学生生活でした。学生時代はやりたいことを存分にやって悔いのない4年間にしたかったです。そこで3年次の夏休みにドイツのマンハイム大学のサマープログラムにも参加しました。約2カ月間の短期留学でしたが、外国人、日本人ともたくさん個性的な友人に出会い、その後の私の生き方や考え方にも影響があったと思えるほど大きなものを得ました。その経験があったからこそ、心おきなく試験勉強に集中できましたし、その後の踏ん

P R O F I L E



宮下 幾久子さん

【1991年法学部卒業】
千里中央法律事務所 弁護士

大学に入学した頃は司法書士と弁護士の違いもわからなかった、という宮下さん。最初に入った弁護士事務所の時代に大阪弁護士会の消費者保護委員会に所属し、悪徳商法やクレジットの消費者被害を研究。大きな被害救済弁護団にも加わって、弁護活動に奔走した。後輩には「自分がどう生きていきたいかをよく考えてほしい。資格を取ればよいというのではなく、資格を取って何をしたいかということが大事です」とアドバイスを贈る。

一つのことを追求したいという 思いから、コンサルティングの世界へ



社したのが2005年のことでした。最初に入社した銀行の仕事は好きでしたし、法人・個人富裕層の新規担当で個人表彰を受けたこともあり、しかしそれを投げ打つ理由は、アスリートとして何かを追求したいという貪欲な思いがあったからです。大学時代には世界選手権に出場し、その世界で生きていきたい、いつかはオリンピックに出場したいと真剣に考えていた時期もありました。しかし今は「ボードセリングで世界をめざす」という目標の代わりに打ち込めるものを見つけた。それは今の仕事ですがアスリートもコンサルも何かを追求するといふ価値観では共通する点があると感じています。

大学卒業後、東京三菱銀行(当時)に入社しました。が学生時代に取り組んでいたボードセリングの夢があまりのきれわず退社。その後半年間、奄美大島で練習に打ち込んでいました。その後、偶然出会う人に誘われて東京でインターナショナル関連のイベントビジネスを立ち上げました。それがちょうど2000年のスタートの頃です。その後、小規模、総勢5名のコンサルtant会社に転職したり、マネオリンクを親戦する目的で世界周の旅に出たりと、激動の20代を過ごしました。そして現在の会社の募集を知り、入

社したのが2005年のことでした。最初に入社した銀行の仕事は好きでしたし、法人・個人富裕層の新規担当で個人表彰を受けたこともあり、しかしそれを投げ打つ理由は、アスリートとして何かを追求したいという貪欲な思いがあったからです。大学時代には世界選手権に出場し、その世界で生きていきたい、いつかはオリンピックに出場したいと真剣に考えていた時期もありました。しかし今は「ボードセリングで世界をめざす」という目標の代わりに打ち込めるものを見つけた。それは今の仕事ですがアスリートもコンサルも何かを追求するといふ価値観では共通する点があると感じています。

P R O F I L E

杉浦 万正さん

【1998年経済学部卒業】
トーマツコンサルティング株式会社
シニアコンサルタント



大学入学後に始めたボードセリングは今も趣味として続け、3年連続で国体に出場している。銀行退職後の4年間は「流転の日々」だったが、折々での人との出会いが、その後の方向を決定づけてきた。「仲間は大切です。人生はこれに尽きると言ってもいいのではないのでしょうか。一生つき合っていける仲間を、ぜひ学生時代に作ってほしい」という言葉にも、杉浦さんならではの実感がこもっている。

同志社では自由と責任という考え方に触れたように思います。しかし在学中は、真の自由の意味がよくわかっていませんでした。自分がやりたいことをやるのが大切だと思っていたので、二期はそれをただひたすらに追求してきました。しかし社会に出て、自由の裏返しにある責任の意味もよくわかるようになっていきました。無秩序な自由の先には何も得るものはない、責任があるからこそ自由が楽しいというところもよく理解できるようになったのです。

後輩の学生たちには、真の自由の意味として同志社の良さを理解してほしいです。また、社会に出て重要なのは、自分で考えることです。私は今までも、心に存在する答えを探すことが考えられることだと思っています。でもそれは違う。本当の意味で自分の頭で考えることをしない、社会では通用しません。学生時代はクラブ活動に没頭していましたが、やはり勉強は大切だといつても身に染みてわかるようになります。社会に出てから後悔しないよう、学生時代にはしっかりと勉強にも取り組むべきだと思います。

C E M E N T

観に行こう聴きに行こう～学生団体6～9月の活動予定～

今出川校地～寒梅館ハーディーホール・クローバーホール～

- 6月 3日(日)One Voices「新入生歓迎ライブ」 13:00～
6月 6日(水)グリークラブ「アモスト大学ズンバイズとのジョイントコンサート」 17:30～
6月8日(金)、15日(金)国際居住研究会「映画『神の子達』上映」 17:00～
6月10日(日)軽音楽部「OBとのジョイントコンサート」 13:00～
6月17日(日)とんがりぼうし「定例コンサート」 13:00～
6月29日(金)雅楽会・邦楽部・能楽部「合同公演会」 13:30～
6月30日(土)学生混声合唱団C.C.D.「フレッシュコンサート」時間未定～明徳館～
6月21日(木)学生保健部会「献血」 10:00～
6月26日(火)ピアノ研究会「ピアノコンサート」 時間未定

今出川校地～新町別館小ホール～

- 6月15日(金)～17日(日)同志社小劇場6月公演「フローズン・ピーチ」
6月29日(金)～7月1日(日)第三劇場6月公演
7月 6日(金)～8日(日)演劇集団Q7月公演
いずれも1日目18:00～、2日目14:00～と18:00～、3日目14:00～

京田辺校地～ハローホール(ホール前広場含む)～

- 6月 1日(金)とんがりぼうし「定例コンデモ演奏」 12:15～
6月 2日(土)F.S.S.「前期オープンホールコンサート」 12:00～
6月 5日(火)保健サークル「AED講習会」
6月 7日(木)とんがりぼうし「2回生コンサート」 12:15～
6月 8日(金)soul 2 soul「ダンスステージ」 12:30～
F.S.S.「前期定期演奏会デモ演奏」 12:15～
6月 9日(土)とんがりぼうし「2回生コンサート」 12:00～
6月15日(金)SMMA「4大軽音サークルジョイントコンサートデモ演奏」 12:15～
6月16日(土)SMMA「4大軽音サークルジョイントコンサート」 12:30～
6月21日(木)I.P.C「デモ演奏」 12:15～
6月22日(金)軽音サークルPENTA「デモ演奏」 12:15～
6月23日(土)軽音サークルPENTA「定期演奏会」 12:00～
6月29日(金)Jewels「Springステージ」 12:15～
6月30日(土)One Voice「新歓ライブ」 時間未定
7月 7日(土)F・A・C「定期演奏会」 11:00～

学外

- 6月 7日(木)学生混声合唱団C.C.D.
「関西学生混声合唱連盟定期演奏会」
【場所】フェスティバルホール(京阪「淀屋橋」駅 出口)
6月 9日(土)混声合唱団こまくさ「フレッシュコンサート」
【場所】栄光館
6月12日(火)～17日(日)クラマ画会「前期展」
【場所】ギャラリーエヤマシタ2階(寺町三条上ル西側)
6月16日(土)能楽部観世会「同志社観世能」
【場所】嘉祥閣(両替町通竹屋町上ル東側)
6月16日(土)交響楽団「第46回同立交歓演奏会」
【場所】京都コンサートホール(地下鉄「北山」駅 番出口南へ)
6月16日(土)～17日(日)書道部「青嵐展」
【場所】建仁寺西来院(東山区大和大路通松原上ル東)
6月17日(日)志清会「水無月茶会」
【場所】国際交流会館(地下鉄東西線「蹴上駅」)
6月23日(土)学生混声合唱団C.C.D.「早稲田・同志社交歓演奏会」
【場所】第一生命ホール(東京)

- 6月23日(土)～24日(日)
能楽部宝生会「全国宝生流学生能楽連盟京都大会」
【場所】金剛能楽堂(地下鉄「今出川駅」 出口)
6月28日(木)～7月1日(日)カメラクラブ
「京都学生写真連盟主催TEMPERATURE～温度～」
【場所】三条柳馬場ギャラリー、ギャラリーみすや、
吉象堂ギャラリー、プチドール884
7月 1日(日)混声合唱団こまくさ
「大阪大学男声合唱団・同志社混声合唱団こまくさJOINTコンサート」
【場所】長岡京記念文化会館(阪急「長岡天神」駅西へ)
7月 1日(日)グリークラブ「東西四大学合唱演奏会」
【場所】昭和女子大学人見記念講堂(東京)
7月 1日(日)リーダークラッツ「新入生のためのJungfernkonzert」
【場所】栄光館
8月31日(金)～9月3日(月)法学研究会「第51回移動法律相談」
【場所】8/31～9/1島根県松江市島根県民会館
9/2～9/3鳥取県米子市米子コンベンションセンター

2007年度 同志社大学東京講座

2007年度東京講座の日程は下記のとおりです。多くの方々のご参加をお待ちしています。

- 【会場】同志社大学東京オフィス大セミナールーム
(日本ビルヂング5階566区)
JR東京駅八重洲北口・日本橋口から徒歩5分
【時間】18:30～20:00

インターセッション

- 統一テーマ:キリスト教・人間・こころ
A...6月27日(水)キリスト教と暴力 ドメスティックバイオレンスをめぐって
関谷直人 神学部教授
B...7月25日(水)キリスト教と人間関係 自己と他者のあり方を見つめる
三木メイ キリスト教文化センター専任講師
C...10月1日(月)高齢社会とキリスト教 ある日系教会の試みを通して
西村篤 神学部助教

第1セッション

- 統一テーマ:1980年代とは何だったのか?
6月 1日(金)1980年代の国際政治
6月 8日(金)1980年代の日本政治
6月29日(金)1980年代の日本社会
村田晃嗣 法学部教授

第2セッション

- 統一テーマ:新島襄とエコロジー
7月 6日(金)新島襄にみるエコロジー 岸基史 経済学部准教授
7月13日(金)キリスト教とエコロジー 和田喜彦 経済学部准教授
7月20日(金)マサチューセッツとエコロジー 室田武 経済学部教授

第3セッション

- 統一テーマ:金融市場と資金循環
10月12日(金)資金循環と市場型間接金融 藤原秀夫 商学部教授
10月19日(金)金融市場の不完全性および不完備性 丸茂俊彦 商学部准教授
10月26日(金)金融の不安定性 植田宏文 商学部教授
詳細は、本学HP

(<http://www.doshisha.ac.jp/lifelong/event/koukai/tokyo/>)
をご覧ください。

【お問い合わせ先】人文科学研究所 TEL:075-251-3941

Doshisha Spirit Week 2007 春

同志社大学には、建学以来脈々と受け継がれてきたキリスト教主義教育、新島襄の教育理念、そしてその実践といった建学の精神と伝統があります。Doshisha Spirit Weekは、キリスト教主義教育や創立者・新島襄について触れ、同志社人としてのアイデンティティを高めることを目的として2003年から始まりました。期間中は、講演や展示、Doshisha College Songの歌唱指導などさまざまな企画が行われます。

【期間】6月11日(月)～16日(土)

<京田辺校地>

講演

- 6月12日(火)10:45～ 本井康博 神学部教授
- 6月13日(水)10:45～ 大鉢忠 工学部教授(京田辺チャペル・アワー)
- 6月14日(木)10:45～ 佐野修弘 同志社スポーツユニオン会長
- 6月15日(金)10:45～ 水谷 誠 キリスト教文化センター所長
- 15:00～ 井上勝也 同志社大学名誉教授

カレッジソング歌唱指導(多目的ホール前広場)

- 6月11日(月)12:30～ 応援団
- 6月13日(水)12:40～ 混声合唱団こまくさ
- 展示「戦後の同志社1946～1986」TC1-111

<今出川校地>

講演

- 6月12日(火)18:05～ 大岡次郎 同志社評議員(火曜チャペル・アワー)
- 6月13日(水) 9:00～ 神谷雄績 同志社大学嘱託講師
- 10:45～ 百合野正博 商学部教授(水曜チャペル・アワー)
- 6月14日(木)13:15～ 北垣宗治 同志社大学名誉教授
- 6月15日(金)10:45～ 濱直樹 同志社スポーツユニオン理事長
- キャンパスめぐり隊
- 6月16日(土)11:00～ 至誠館前集合 案内人:本井康博 神学部教授

詳細は本学HPや学内掲示板でお知らせします。

【お問い合わせ先】キリスト教文化センター

京田辺:0774-65-7370 今出川:075-251-3320



障がい学生支援制度サポートスタッフ大募集!

同じキャンパスで学ぶ障がい学生(challenged)のサポートスタッフを募集しています。初めての方でもできることはたくさんありますので、ぜひスタッフに登録してパソコン通訳、ビデオ字幕付けなどのスタッフとして活動してください!各種講習会も開催していますので、興味のある方は学生支援課までご連絡ください。時給:一律870円

<支援活動の内容>

聴覚障害:ノートテイク、パソコン通訳、手話通訳、ビデオ字幕付け、ビデオ文字起こしなど
 視覚障害:講義資料、試験問題の点訳、拡大コピー、代筆、代読、ガイドヘルプなど
 肢体不自由:代筆、車椅子介助、トイレ介助、食事介助など

〔お申し込み・お問い合わせ先〕

京田辺校地学生支援課 TEL:0774-65-7410

今出川校地学生支援課 TEL:075-251-3270

E-mail:jt-gakse@mail.doshisha.ac.jp



WOT (ワット) =What's on Thursdays!

「木曜日には何かがある!」を合言葉に、開講期間中の毎週木曜日、映画上映を中心に多彩なイベントを開催しています。

【会場】寒梅館ハーディーホール

【料金】本学学生・教職員はすべて入場無料

6/7:一般1000円 / 他学生500円 / Hardience 800円

6/14・21:一般1300円 / 他学生・Hardience 1000円

cinema

- 6月7日(木)映画『硫黄島からの手紙』15:00～ / 18:30～
監督:クリント・イーストウッド 出演:渡辺謙、二宮和也、伊原剛志
- 6月14日(木)映画『千の風になって』10:30～ / 13:30～ / 16:00～
監督:金秀吉 出演:南果歩、西山繭子、伊藤高史
- 6月21日(木)映画『佐賀のがばいばあちゃん』
10:30～ / 13:00～ / 15:30～ / 18:30～
監督:倉内均 原作:島田洋七 出演:吉行和子、浅田美代子、工藤夕貴
- 6月28日(木)新作試写会【要整理券】(詳細未定)
内容は都合により変更になる場合があります。次回は、秋学期10月から再開します。

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL 075-251-3270



クローバーシアター

開講期間中の毎週火曜日、寒梅館のミニシアター・クローバーホールで、映画史に残る名作の数々を特集上映します。

【会場】寒梅館クローバーホール(地階) 【入場無料(DVD/VHS上映)】
特集 映画の中の子どもたち

- 6月 5日(火)16:45～『新学期・操行ゼロ』(44分)
- 『ローラーとパイオリン』(46分)
- 18:30～『アン・ラシャシャン』(7分)
- 『大人は判ってくれない』(99分)
- 6月12日(火)16:45～『緑色の髪の少年』(88分)
- 18:30～『トリュフォーの思春期』(105分)
- 6月19日(火)16:45～『お早よう』(94分)
- 18:30～『童年往時』(138分)
- 6月26日(火)16:45～『河』(99分)
- 18:40～『ミツパチのささやき』(99分)
- 7月10日(火)16:45～『僕の村は戦場だった』(94分)
- 18:30～『霧の中の風景』(120分)

7/3(火)は休映。内容は都合により変更になる場合があります。次回は、秋学期10月より再開します。

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL 075-251-3270



うたとお芝居のワークショップ終了公演 &同志社コール・フリューゲルサマーコンサート

学生支援課主催の「うたとお芝居のワークショップ」参加者とコール・フリューゲルによる共演ステージ。小学生を含むワークショップ参加者たちは、4月からのびのびと、かつ真剣に、練習を重ねてきました。ファンタジックな宮澤賢治の世界を、味わい深い音楽と共に、お楽しみください。

7月8日(日)14:30開場 15:00開演(17:00終演予定)

会場:同志社大学寒梅館ハーディーホール

第1ステージ

Missa inG op.151作曲 Josef Gabriel Rheinberger

第2ステージ

「四季のうた 日本のうた」ふるさと・七夕さま・ずいずいずこころばし など

第3ステージ(うたとお芝居のワークショップ終了公演)

合唱劇「どんぐりと山猫」原作・宮澤賢治 作曲・萩京子

出演:同志社大学学生支援課主催CLAP「うたとお芝居のワークショップ」参加者、コール・フリューゲル

入場料(予定)500円(未就学児は無料)。

【お問い合わせ先】今出川校地学生支援課 TEL 075-251-3270

挑戦する人 My Purpose



留学生を支援するボランティア活動に奔走

～相手の立場で考えることの大切さを知る～

高校生の交換留学を主な活動として、国際教育交流団体・財団法人エイ・エフ・エス日本協会(AFS)の京都支部で、1年次からボランティアとして活動しています。活動の内容には大きく3つの柱があります。まず1つが留学生の受け入れ。留学生を受け入れてくれるホストファミリー、受入校の募集や、滞在中のサポートなどです。2つ目は留学生が滞在中の間の異文化交流イベントの企画・運営。主に、留学生と日本の中・高校生とが交流する、インターナショナルサマーキャンプ、留学生が平和学習を行う「広島ツアー」などを行っています。そして3つ目が日本からの留学生の派遣。年間・短期の留学プログラムへの参加募集、留学する高校生に対するオリエンテーションの実施などです。AFSには現在、国内に67の支部があり、ほとんどは社会人が運営しているのですが、東京や京都など学生が多い都市では、大学生が主体となって活動しています。

私がAFSの活動に携わるようになったのは、高校2年生の時にインドネシアに1カ月の短期留学をしたことがきっかけです。その時にホストファミリーを探してくれたり、滞在中のサポートを担当してくれたのがAFSでした。その恩返しの意味から、大学生になったらボランティアとして活動しようと思ったのです。

2年目は、留学生の受け入れ家庭を探す(FEファミリーファインディング)の部

長を担当したのですが、授業の合間に候補の家庭に電話したり、放課後には実際に家庭訪問をしてプログラムの内容やサポート体制の説明をしたりと、生活の中心の部分がAFSの活動でした。私はこの経験を通して多くのことを学ぶことができたと思います。1つは、どんな時も相手の視点で物事を考えるようになったことです。例えばホストファミリーには、ただ「ごちそう」だけで伝えるのもうまくいきません。自分がその立場になった場合を考えて、マインスマもきちんと話して「ご理解していただけます。留学生、ホストファミリー、スタッフそれぞれの立場・視点で考え、誠実に対応することを覚ええました。

今は政策学部でゼミでフィリピン開発経済をテーマに研究しています。卒業後も何らかの形で、東南アジアとの関わりを持ち続けたい。そしてゆくゆくは自分がホストファミリーとして、留学生の受け入れに協力できたらと考えています。

Profile



田口 沙緒理さん
【政策学部4年次生】